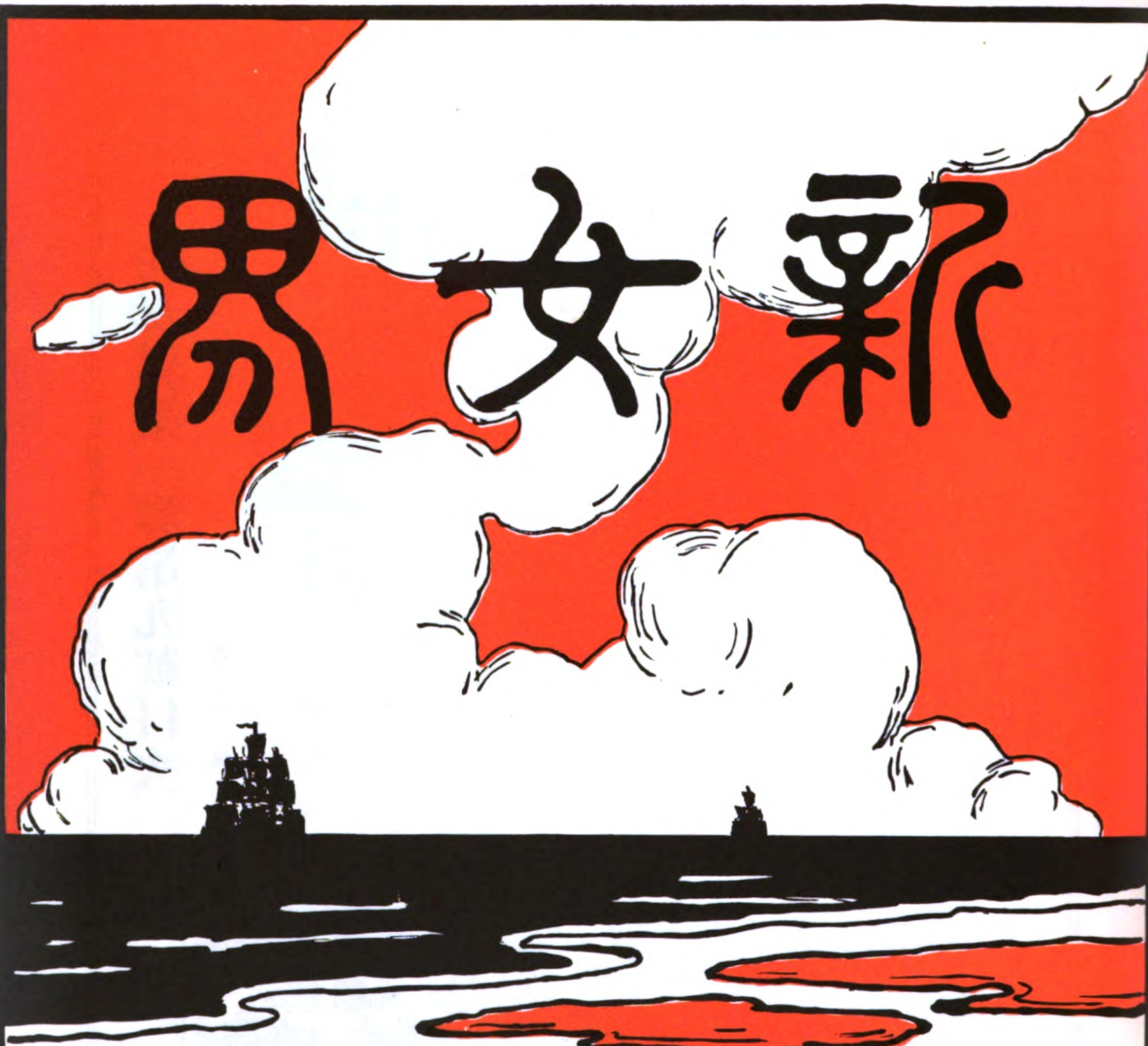


主幹 海老名彈正

主筆 安井哲子

要目

眞に教育ある婦人 安井哲子

先づ小事に忠實なれ 女子高等師範學校教授 宮川壽美子

偉人の誕生 文學士 栗原基

女子教育に就て 法學博士 浮田和民

加納家々人の心得 安井哲子

行當りばつたり集 文學士 内ケ崎作三郎

快活なる生活の秘訣 海老名彈正

聖誕祭と弱者 救世軍中佐 山室軍平

十二月號

第壹巻第九號

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

新女界第一巻第九號目次

●眞に敎育ある婦人　安井哲子

思想

●女子敎育に就て　法學博士　浮田和民
●先づ小事に忠實なれ　女子高等師範學校敎授　宮川壽美子
●運動と性格　文學士　海老名一雄
●偉人の誕生　文學士　栗原基

家庭

●孝子基督　赤星仙太
●加納家々人の心得　安井哲子
●子女敎育に對する母の務　海老名みや子

文苑

●ゆきあたりばつたり集　文學士　內ヶ崎作三郎
●聖誕　秋生譯
●さすらひ（新體詩）　澱橋生
●信賴（同上）　なほ子

講壇

●快活なる生活の秘訣　海老名彈正

雜錄

●聖誕祭と弱者　救世軍中佐　山室軍平
●編輯局だより　野口せい子

眞に教育ある婦人

安井哲

吾國の女子教育程面倒な者はなく、男子が女子に要求する條件が異る通りに、女子教育の目的や方法に就いても種々の議論が御座います。殊に現在に於ける女子の高等教育に對しては、父兄も教師自身も、時としますと勝手次第な批評を下し、女學生は御飯の焚き方も知らぬとか、洗濯も出來ぬとかいふ攻撃のみを下します。私は今茲に改めて女子教育の目的とか、方法とか堅くるしい事を説明するのでは御座いませんが、唯「眞に教育ある者」とは如何なる意味であるかと申す事を述べて見たいと考へるので御座います。

「眞に教育ある者」とは、單に多くの書物を讀んだとか、又は專門的の學問を深く修めたと云ふのみの意義では御座いません。能く心身が訓練されて、物事を正しく判斷

する事が出來、且又其境遇に應じて適當に其身を處置し得るのみか、敏捷に其判斷を實行し得る人を云ふのであります。一言で申せば、如何なる境遇に置かれても、役に立つ樣に其身を行動する事の出來る人を申すのであります。其故に商人の妻となつても、官吏の夫人となつても、金滿家の令孃としても、貧乏人の娘としても、價値ある生活をなして行く事の出來る人が、即眞に敎育を受けた價値のある人であると思ひます。唯上等の料理が出來れば、官吏の妻たる資格が備はるかといへば勿論そうでないのは明かで、又帳記計算に達者であるのみで、商人の妻たるに適すとも申せません。其故に學校敎育は限りある時間に於て、年若き人々の心身を練り將來如何なる境遇に其身を處しても、價ある生活を爲し得る準備と基礎とを與ふる者であります。其故學校は恐らく御飯炊から總ての料理まで、料理人の如く巧に出來るまで、充分の練習をさせる事は出來ますまいが、併爲さねばならぬと決心した以上には、何事でも能く爲すべき方法を考へて、熱心に且敏捷に爲し得る素養を與へるのであります。料理、裁縫、作法を初め家事の實地練習は、家庭に於て母親が親しく敎ふべき仕事で御座います。然るに世の父母は時とすると、家庭に於て其子に授くべき多くの學習と、訓練とを等閑にし、吾愛子の敎育全體を舉げて、僅に五六年間の關係を有する學校に一任し、其結果の不完全なのを見て、直ちに學校敎育を批難する者がありますが、是等は親として、餘り無責任な者と申さねばなりません。吾家風と生活程度とに相應した家事の實地練習は、各の家庭に於て其母親から充分に敎へられねばならぬので御座います。

私は能く心の訓練された婦人が、家事を整理する事の巧であるのを實地經驗致しました。例へば數學や理科に長じた女生徒は、裁縫や習字のみを能くする生徒よりも、一見妻としては不適當の樣に思はれますが、實は正反對で、頭腦の明瞭な女子程種々工夫をして、複雜な家事を整へ、經濟にも亦巧であります。又機械的の事にのみ練習を積んだ婦人は、往々複雜な人事を判斷し、敏捷に之れを處置する事の出來ぬのも、屢實驗する所であります。殊に子供の敎育に對しては、どうしても、十分に敎育ある婦人を必要と致しますので、未來多き可愛い子供の運命が、母親の力に依つて、其大部分を定めらるゝ事を考へますと、女子には裁縫料理の外に必何等かの要求がなければなりません。妻のみの時代は短く、母としての時代は非常に長くあります。然るに其一二年間の妻としてのみの時代を考へ、唯食べたり、着たり遊んだりする氣樂な事のみを豫想して、配偶を求めるのは餘り淺薄な考ではありませんか。かゝる樂しい夢は何時か覺めて、可愛い吾兒も次

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

第に思ふ様にならなくなり　不知不識悪るい習慣に染み、學校の成績は悪るく、一生之れが爲めに苦勞せねばならぬ人は中々數多くあります。私は英國に在つて、多くの家庭を觀察致しましたが、其子女の教育から、學校の撰擇から、一家の經濟に至るまで、主婦が能く責任を以て之れに當つて居ます。殊に高等の教育を受けた者が、必しも教師となるのでなく、一家の主婦となつて能く其境遇に應じた生活法を撰擇する事の出來るのには、感服の外は御座いません。

或人は近頃の女子は唯月や花にのみ思ひをやつて、家事には全く興味を有たぬと批難する人々もありますが、之れは必しも文學を修めた罪ではありません。恐らく其修め方の罪でありませう。西洋の女子中には、近世の文學どころか、實際の生活に最關係の少ない「ラテン」や「ギリシヤ」語を專修する者もありますが、是等の人々でも一家の主婦となつた場合に、唯「ラテン」語や「ギリシヤ」語の研究のみを爲して居らぬ事は無論で能く主婦としての務を盡して居ます。私の友人は夫婦共にかかる學科を修めましたが、二人共余り資産がなく、唯夫の收入のみで生活せねばならぬ處から、勞働者の爲めに建てられた、小さな家に住み、妻は五六歳になる女の兒を相手に自身に料理もし、又拭き掃除も致します。併之れを以て曾て受けた大學教育が不必要であつたとも考へず、又高等教育を受けた者としては、恥づべき下賤の仕事をして居るとも考へません。夫婦相信じ、相樂しみ、小さな家に在つて、質朴な生活をなしつゝ高尚な趣味と快樂とを共に喜んで居ます。又近く吾國に其例を求めますれば、先日私が或地方で御目にかゝりました婦人の如きは、高等な教育を受けられた方でありますが、農家の主婦として、自身に耕作もし蠶も飼ひ、萬事農婦としての生活をされるそうでありますが、諸事を敏捷に且行届いて周旋さるゝ有様は、さすが高等の教育を受けた方だなと頷かれました。又去る天長節に於て、名譽ある善行祝賀式を行はれたといふ城南小學校の女教員の如きも、眞の教育を受けられた良き實例で御座います。教育を受けた女子は吾現在の境遇に於て、先何を爲すべきかを考へ、之れを實行せんとする勇氣がある筈でありますから、不幸にして此女子の如く家計の不如意、父の自暴自棄を實驗された場合には、先之れを救ふ最良の方法を案出し、之れを實行しやうと務めるのは當然であります。其故此年若き善良な女教師の行が、かくあつたのは實に教育ある價値を示した者で、賞讃に堪へません。かゝる婦人達こそ、私は稱して「眞に教育ある者」といふのであります。私は家庭と學校とが、女子教育に對する正當な解釋を與へて、其娘其生徒が修學する精神を誤らしめぬ時には、實着にして、實力あり、夫の爲め子の爲

め、延いては世の爲めに助けとなるべき婦人を作り得る事は必然であると考へます。

要するに世の女子の父母たり、兄弟たり、敎師たる人々は、年若き女子の爲めに無責な批評をなす事を謹み、自熟慮して、彼等の爲めに敎育の良果を結ばしめ様と勉められん事を希望致します。吾々は時とすると、自分の責任を忘れて他人を攻擊し、其れが却つて自家攻擊となる事を知らぬ事があります。女子敎育に從事する人々の女生徒攻擊、父兄の學校攻擊等の中には、此實例となる者が多くあります。又敎育ある女子互の間に於ては、互に實着を旨とし、自他を批評するに、其生家の自分位置財產等でなく、各身が如何に其境遇を支配しつゝあるかと云ふ點に注目せねばなりません。例へば甲婦人は服裝が立派で羨ましいと思ひ、其一面に大切な家事の整理や、子供の敎育を怠つて居る事を知らぬよりも、寧乙婦人は實に正しい標準の下に萬事を處理して行かるゝ事を賞し、其婦人の實着にして、浮華ならぬ生活振を慕ふべきであります。かくの如くなりますと、自然婦人間の制裁は健全となつて、外觀の美、無益の饗應、又は意味なき贈物等を喜ばぬ樣になり、互に其身分と位置と富との度に應じて、眞面目な意味ある生活を爲さうと勵む樣になりませう、裁縫の學習は單に美麗な衣服を製るのみの用でなく、料理の稽古は必しも山海の珍味に其手腕を振ふ爲めのみではありますまい。殊に子供の愛は決して其子に美衣美食を給して、我儘氣隨に育てるのではなく、能く其子の將來を思ひ、眞の幸福と發展との爲めに、多くの思慮を用ひねばなりません。是等の重大なる責任を全うし、家庭內又は交際する範圍內の人々の趣味を自然に高尙にして、華を去り實を尊ぶ風習を形作くるには、眞に敎育ある婦人を要するので、「敎育あり」と自覺する婦人は、他人の批評は兎に角、果して自身が日常の生活狀態に於て、敎育を受けた眞義を實現しつゝあるか否かといふ事を、反省すべきであります。

琴は西片町あたりの垣根ごしに聞たるが、
いと哀き月に彈く人のかげも見まほしく、
物がたりめきて床しかりし　（一葉）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

思想

女子教育に就て

浮田和民

女子教育も男子と同じく普通と高等と二種に分れてゐる。今日一般の思想からは女子に、男子の中等教育に當る普通教育を施すと云ふ事に就ては全然承認せられて何等の異論がない處である。然れども高等女學校以上即ち普通教育程度以上の、高等教育なり或は大學教育なりを與ふる事に就ては、必要か不必要か、今尚議論の分れる處で未決の問題として殘つてゐる。

或人は時勢が時勢なれば女子に教育を施すといふ事に就ては異存はないが、高等教育に至つては女子の一種の道樂であると云ふ人もある。又相當の見識ある人にして尚高等教育不必要を説く者決して稀でない。

予は右の説に對して異論を持つてゐる。一體男子と女子とは車の輪の如き關係を有するものであつて、一方の輪が進めば他方の輪も進み、前後遲速の差違こそあれ、兩々相連關した關係になつてゐる。男子が歐米の學を採取して益々其智能を開發する時代には、女子も亦相應に其方の學問をしなければならぬ。一國文化の上又は國民發展の上には、斯る研學の趨勢を益進むるが必要か、將た之を阻碍して妨ぐるが必要かの問題を決するのが同時に又高等教育必要不必要の問題を決する處となるのである。實に見易き理であつて何等異論のある筈はないと思はれる。此問題は教育の目的又は教育とは如何なるものなるかの判斷に大なる差違を生じて來る。

好奇心の爲め又は虚榮心の爲に學問すると云ふ事なら、言はずともそれは謬つた事で却つて害毒になる、特に教育を半途にして放棄する事位弊害の甚だしい事はない、寧ろ全然無教育の方が勝つてると斷言しても差支がないと思ふ。

何れの社會でも教育が普及せずして一部の人しか學問しないといふ時代には、少し字でも讀めるものは非常に威張つ

たもので、一般からも學者として常人以上に尊敬せられたものである。明治の初年蘭學とか英學をなすものは千人に一人と云つたやうな調子で、原書の一冊も讀めれば、學識はさ迄なくとも中々威張たものである。凡て敎育の程度が淺い場合には往々にして輕兆浮薄な弊害が現れて來るものである、之は男子も女子も同じ事である。

今日の女子の敎育の程度は男子に比して非常に遲れておる、恰も明治初年に於ける男子位の處であるから、現今の女子に生意氣な威張散らすといふ弊害が出て來るのである。半敎育の時代であるから概して云ふと利益が見ねずに弊害ばかりが目に附くと云ふ現象になつておる。

それに又現今の新聞紙の針小棒大的な筆致は些細の事件を過大にして世間に報導するから、心ある世の父兄に女子の敎育に關し消極的な態度をとらせ高等敎育を受させる事に躊躇させるやうになる。高等なる敎育は徒に驕慢心を起させる許りであるとか、又は結婚を拒認する傾向を造るとかの理由で高等敎育不必要を說く人もある。

然し之は誤つた觀察と云はなければならぬ。

若し敎育が單に各個人の爲に施さるゝものと考ふるならば、其結果は實に複雜なもので、一槪に敎育の價値は考へられない。偶々敎育を受けた爲に非常な不幸に遭遇して、寧ろ學問

などしなかつた方がよかつたと後悔する人もないでもあるまい。然し斯る人があるからと云つて敎育を不必要だと斷ずるのは甚しき謬論である。敎育ある人が受ける不幸と敎育なき人が受ける不幸と、其比較は女子敎育に就て詳細なる統計を缺いておる現今に於ては明言する事は出來ないが、然し吾等は時勢に注目しなければならぬ、男子が學術の蘊奧を極めて益々進歩發達をなしつゝある時代に於て、其伴侶たる可き女子が之に對して同情者たり、又内助者たるだけの敎育が必要であるかないかは殆んど問題にならないのである。唯一般に云へば男子でさへ普通敎育を受ける事が困難な今日に於て、一般女子が高等敎育を受けるといふ事は實に六ケ敷事である、實に慨嘆せざるを得ない。夫故國家及び社會は敎育機關を增設して女子敎育の普及を計らなければならぬ。

一體男女の精神は相關的のものであつて、人間としての精神作用を分拆して見ると兩性の遺傳から出來ておる事が解る父母の精神は男子にも女子にも遺傳するものであるから、男女兩性が同じく双方に這入つて來る。夫れ故男子の敎育を進めようと思ふならば、同時に女子の敎育も進めなければならぬといふ決論になつてくる。

之を歷史上の事實に徵して見ても、男子の偉大なる事業を能く研究して見ると、遠く因を女子の精神に發しておる事を

發見する事が出來る。嘗つて放蕩無頼なりしセント、オーガスチンが心機一轉道德堅固なる一大宗教家として後世迄も其聖名を讃せらるゝに至つたのは、日夜オーガスチンの爲めに祝福を神に熱禱してやまざりし母モニカの精神を遺傳してゐたからである。福澤先生が平民主義を標榜して始終一貫渝る事がなかつたのは、勿論學問より得た結果もある事なるが、其母より遺傳せる精神によれるものだろうと思はれる、福翁百話を讀むと中に、先生の母は一人の女乞食を非常に可愛がつておつたが、其頭に虱がおるのをいやがつて自身でそれをとつてやつたといふ事が書いてある。予は之を讀んで福澤先生の人格の因て來る處を知る事が得たのである。

女子教育は必ずしも女子一個人の爲でない、予は男子の爲め更に國家の爲であると思ふ、何となれば男子のみを教育するとある程度に進めば其處に止まりてそれ以上には發達せぬ事がある、恰も田や畑の如く同一の場處にのみ栽培すれば、植物の發育は不充分で萎縮して仕舞ふから、他の土地に移植せねばならぬと一般である。男子を現在の程度より更に進歩發達せしめんと思はゞ、同時に女子の教育を普及せしめ且つ其程度を高めなければならぬ。

東洋は西洋に比較して全體に智識の程度が遲れておる。其間に立てる日本は近隣に競爭すべき國を有ないから、勢ひ歐米諸國と競爭する運命を有しておる。優秀なる文化の狀態にある歐米諸國と駢馳するには日本は尚ほまだ多大の刻苦研鑽を要するのに、女子と雖も高等教育の不必要な事があろうか。

而して又教育の結果女子の能力が如何なる程度迄發達するかは未定の問題であるが、例へば戰爭の如き事業は女子に絶對的に出來ない事と思考されておるけれど、佛蘭西に於けるヂヤン、ダークの壯烈なる事實もあり、又佛蘭西軍の爲に破られて國歩艱難を極めた當時のプロイセンには實に女子が男裝して出陣した例もある。之はある場合には女子にも戰爭が可能であるといふ事を證明するものである。之は一例に過ぎないけれど女子の能力は教養の如何により多大の發達をなす可きものであると思ふ、戰爭も其勝敗は智術的設備によりて決せらるゝ今日、男女全體の教育を盛にして歐米以上に優秀なる狀態に到達させなければならぬ、教育の普及と程度の增進は實に一國興敗の分るゝ處であるから女子教育も男子の教育と共に進めなければならぬ。

唯現今の女子が虚榮心に囚はれて徒らに皮相に走れるが如き觀あるは、未だ教育の到らざる結果で半教育の狀態にあるからである、漸次教育の完備するに從つて女子の思想も堅實となり、外觀の如何に其全心を勞するが如き今日の醜状より覺醒して内部に安ずるに至るであろう。現今の女子の弊害は

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

偶々不完全なる教育の誘致する處であつて、完備せる教育は益々女子の能力を發達せしめ、精神を堅固ならしむるであろう。斯くするのは實に女子一個の爲のみならず一國を興す所以である。予は國家百年の謀の爲に女子教育の普及と程度の增進とを稱導するものである。（女子大學通俗講話會講演文責記者）

先づ小事に忠實なれ

宮川すみ子

A little thing is a little thing, but to be faithful in a little thing is a great thing.

小事は小事なりされど小事に忠實なるは大事なり

「汝僅かなる事に忠なり、我汝に大なる事を掌らせん」といふ言があります。其日其日を忠實に暮し僅かなる事に眞面目にして行く事が第一大切です。秀吉公がまだ信長公の草履取りをして居りました時に玄關で信長公を待つて居りました時、草履を懷中に入れて暖め、通常ならば其傍で只待てば宜しきに、職務に忠實の餘り、主人のはかるゝ時冷からん事を思ひ、斯の如く用意周到に大切に務めましたから、遂にはあの樣な大事業をするに至たのであります。世には猿面冠者と云ひ、所謂上手に立ち廻りたる故だと云ひますけれど、此話を聞いて考へますに、信長公が草履をはいて暖味を感じ、此奴草履取りをさする身分ならずとて足輕に取りたてられたので、足輕となりても矢張草履取りをした時と同じく忠實なりしならむと思ひます。決して大事業を望み一足飛びに到達する人はありませぬ。

近頃死去せられた私の知人に、もとは農夫で貧賤な方でありましたが、眞面目に働て家を起した人があります。此人は始め或人の僕に使はれ着物の出入身の周りを扶くる用をし、旅行などする折には、もし洋服に塵埃のついてゐた時は刷毛にてよく拂ひ、汚點のある處は湯にて手拭で拭きこみ、折目を正しくして鞄等にしまひ、凡て斯樣に細い處にもよく注意をし、常にお供をして方々に往つて居りましたが、何時しか其眞面目なる事を認められました。其後外國よりの來賓がありまして誰れか其人の身の周りをする人をと搜しました時に、第一に其僕に選ばれ何事も眞面目に努めましたから追々に用ひられ、實に身分の低い人でしたけれども、子供も各教育して遂に世に知らるゝ程の人となりました。今其人の逝かれた後で考へますに、この健かな身體で塵埃をのけるやうな仕事に能く働かれたものであると泣き笑ひする位に皆人が思ふてをります。

私も學校の生徒を敎へて居りますが、四十名ならば其内の

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

二三名が如何にも眞面目で同じ實習をしても、バケツ盥等を使用したる後で、形式的に只注いで其儘に伏せる者もあれど忠實なる生徒に限り中は勿論外の周圍をも磨き、流しの隅々から活栓迄磨くといふ風で、其子に賴めば後は奇麗になると信じて安心しておられる生徒があります。それを見ますと四十名の生徒が同じく四五年の間同じ分量の敎育を受けて行くに拘はらず、十年たつ間に或人は世の中に用ひられ、或人は左程に用ひられず、到る處にて意見の衝突を來したり、別に思ふ程の功があがらずして終つて仕舞人がありますが、之れ僅かの事に忠實であるかないかの差に原因するのであります。

夫れで又此事は人から信用を得ると云ふ事にも大變關係があります。信用といふ事は他人のみならず內輪の親子兄弟の間にもある事で、我が家なればとて我儘をしたり、又は不眞面目な生活を送る人は決して信用を得る事は出來ません、同じ兄弟姉妹の內でも朝起床後一人は雨戸をあける、一人は床を疊む又掃除するといふ風に働いておるのに、一人が面倒と思ひ其場を逃げて洗面に行く。夜具は疊まれ掃除は出來た其後で室に歸り來て見ますと、凡てが出來てをりますので、一寸居ない內に自分で用事をしなくてよかつたと一時得意の樣に思ひませうが、何故あの樣に不忠實であろう、內の者なればこそ許してもおけど寄

宿舍や又世間に出で困るだらうと親子兄弟の間でも心配し、遂には矢張り親しい間柄にも信用を失ふに至ります。それに引き替へ常に家内の人々には多く迷惑をかけぬ樣と心懸け、却て出來るだけ手傳をするといふ風にいたしますと、内の人に可愛がらるゝのみでなく、あの子ならばと信用され、何事につけても間違のない人物として他人から信を以てせらるゝに至ります。斯樣の心懸のものは學校に行つても何處に行つても同樣に信用を受くるに至ります。例へば何かの會の幹事となり支度をし又相談する事ありましても、人の嫌がる事又面倒な事は先きにたつて致しますから、幹事が五人あらば他の四人の者から認めらるゝに至り遂には漸に會全體のあがむる處となり尊敬せられますが、此の如き心懸けならでは世の中に立つて成功する事は出來ませぬ。人は其日其日の事を忠實にして行きましたなら、今夜死んでも怨みはありませぬ。世の中の仕事は實に多大でありますから其總べてを成就するといふ事は到底出來ぬ事でありますが、各自使命と思ふ處を忠實に盡し其日其日を暮す事が出來ればそれで充分だと思ひます夫故自分のする事が少しでも世の中の爲めになればよいと思ふて、先づ小事から忠實に働く事が肝要であります。

運動と性格

海老名一雄

思ふに世の母たる人が發達盛りの男子を持つて色々の苦勞心痛も多くある中で、其兒が學課の餘暇になす色々の運動と云ふ事に留意せられぬ方はありますまい。之れは其兒が一生に關する重大なる問題であります。併し乍ら此問題は一般に然程に重大視されて居ない、從つて之れに對する注意も頗る當を得て居ないのが多い、これ畢竟運動なるものゝ眞相が世間一般に知られて居ない爲であらうと思ひます。

世に運動家は學校の成績が惡いと云ふ事が殆ど定論の樣になつて居るが爲に、其兒が運動に熱中する事を、恰も魔道に陷つたかの如く恐れる人があります。此問題も或は相應に考究すべきものであるかも知れませんが、私はかゝる疑問は齒牙にだも掛けない、始めより運動は必要であると云ふ前提を持つて御話を致したいので、私しの申そうと思ふ所は最後に至つて或は此疑問をも解決する事になりましやう。

世人の多くは運動は只筋骨の練磨であるとのみ思つて居ります。「ヤ君はボートをおやりですか、立派な御體格で」と云ふ人は幾百人でもあるが、「成程君の氣象はボートマンに違ない」と云つて吳れる人は恐らく澤山はありません。運動が

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

如何なる影響を人の性格の上に及ぼすかを御存じないから、其兒の運動を撰擇せらるゝ上に於て大なる過を來すので、運動は只筋骨の練磨であると御考になるから、只此の運動は肺に宜いの、心臓に惡いのと御尋ねになる。其結果肺が丈夫になる事があるかも知れぬが其兒をして好ましからぬ性格を作らしめて一向頓着なさらない。それ故子供の運動の撰擇を只管御醫者の指揮にのみ御仰ぎになる事は適當な事ではありません。

職業は人の性格を作ると申します、運動の種類によつて其人の性格を異にせしむる事は實に意想外であります。これは婦人方の藝事に於ても同樣であると思ひます。ヴアイオリンを稽古すると琴を稽古するとによつて、其人の性格ほ必ず異つた影響を受けるものであります。ダンシングの巧な人と、生花や茶の湯を極めた人とは一見して分るのであります。かるが故に母たり姉たる人は其子弟が生來の性格と運動の種類とをよく比較考究せらるゝ必要があります。

私はこゝに今日多く行はるゝ各種の運動を一々捕へて來て、其精神的影響に明瞭に具體的に説明せんとするには未だ其研究が不充分でありますが、併し試みに數個の例を擧げて御話しして見たいと思ひます。

運動を大別しますと先づ二種に分たれます。甲は競技運動、乙は單に體育的運動であります。競技運動とは讀んで字の如く、柔道、擊劍乃至野球、競漕の類は皆此部に屬する。乙は其運動の中に競技的分子を含まないものであつて、彼の器械體操やサンドーの鐵啞鈴の如きものを云ふのであります。思ふに後者は單に興味の少ないのみでなく、其主眼は重に生理的方面に存するのであるから、人の性格上に及ぼす所のものは極めて微なるものであります。私の考では此種の運動は競技運動の補助をなす從屬的性質を有するものでありますから。私は主として競技運動に就いて申すのであります。

競技運動は更に團體的と個人的の二つに分れます。これが已に其人の性格上に大なる影響を與へます。個人的競技に於ては勝敗の責掛つて自己一人に存するのであるから、其人にとりて他人は悉く敵であると云ふ感を深からしむるものであります。其結果柔道家、擊劍家の通性として實に油斷がない。一寸も他人に隙を見せまいとする態度が明らかに認められる。油斷のないと云ふ事は其美點であるが、動もすれば他人をして何となく親しみ難い感を爲さしめ、一種不安の念を抱しむるものである。而して同じく個人的競技に於ても其方法の如何により自ら又異なれる特徴を顯はすもので例へて云ふならば、擊劍は面胴小手に身を固め禮儀正しく仕合をやる所から其人の態度性格の上に何となく謹愼の風を顯はさしむる代

りに、一方又動もすれば陰險の感を他人に與へるといふ傾向があります。之に反し肌衣一枚の柔道は赤裸々で無邪氣なる美點と粗暴、放縦なる缺點とを併有して居り、其他弓術家の何となく老人臭く、沈着なる性格を示すのもこの一例であります。

團體的競技と云へば即ちボートレースやベースボールなどを指すものであります。團體競技に於ては一の組の氣合がしつくり合つて、よく共同的動作に出づる事が大切であるから、團體的競技をなすものは自己と云ふ事よりも團體と云ふ事に重きを置く、從つて此種の運動に從事する人の性格には他人と融和共同する性質が益々加はつて來る、でありますから前述の個人的競技をなすものに比して甚だ親しみやすく、之れと交つて極めて心地快き感をなさしむるものであります、併し乍ら自己一身の一擧手一投足に一寸の弱點なきを期する點に於て彼の柔道家、擊劍家に遠く及ばない、團體的競技と云つてもまた其種類に依つて自ら及ぼす所を異にする。ベースボールの如きは勝敗の因個人的技量に待つ所比較的に多く、且つ其運動たるや最も敏捷を要するが爲めにボールマンは一般に機敏で伶悧である。之に反しボートマンは極めて大様で悠々迫らざる通性を有して居るから、動もすれば呑氣過ぎて困ると云はれるのであります。

數へ擧ぐれば際限もない。或は果斷早決を敎ふる運動もあれば、忍耐不拔の精神を養はしむるものもあります。かくの如く運動そのものゝ種類によつて、人の性格に異なれる感化を與ふるものなる事が明らかであれば、世の父母兄姉たる人が其兒の運動を撰擇する上に於て單に醫者の理論に待つと云ふ事の極めて不當である事が解らうと思ひます。即ち考ふべき問題は其男子の生來の傾向、性格が如何樣であるか、如何なる運動によつて其長所を益々長ぜしめ、また其短所を補はしむる事が出來やうかと云ふ事であつて、其取捨の宜しきを得る時は、運動と云ふ事が必ずよき結果を齎らすに相違ありません。勿論除外例もありますが、世に所謂運動の弊害と云ふは此撰擇宜を得ず、短所をして益々深からしめし結果に歸因する事實に多いと私は思ふのであります。

運動と一口に云へば生理的研究も必要でありましやう、其他個々の便宜都合上の問題もありましやう。私の申した事は或は其一方面に過ぎないかも知れません、併し私自らは之が最も重大なる方面であると信じて居り、又世人の多くが沒却して居る點だと思ふのであります、此の如く運動は其性格精神上に重大なる影響を及ぼすものでありますれば、運動の撰擇を一に醫者の素人考―敢て云ふ素人考と―に待つの惡風を止めて戴きたいと思ひます。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

偉人の誕生

栗原基

畫家が心血を濺いて書いても、傑作として後世に傳はるものは一つか二つしかない。其他の作物は其數幾千百なるを知らずと雖、遂に不朽の作たる名譽を擔ふこと能はずして、忘却と稱する無底の深淵に投げ棄てられて仕舞ふ。

詩人が自然の姿を寫し、人情の美を抒べて、幾巻の作物を世に出すも、時間の障壁を突破して、永く心絃情緒を動かすものは至つて少いものである。幾多の佳人才子が其美に誇り才を衒ふても、これも一時、かれも一時、悉く無縁塚の土を肥やすに過ぎない。

世に幾多の邦國あり、無數の人類其間に棲息し、上下六千年に渉りて、此活ける流れは暫らくも斷ねたることなけれども、偉人傑士として萬代に其光榮を歌はれる者は比較的に寥々たるものである。情けないことではあるけれども、其他は悉くウジョ〳〵して居る醉生夢死とでも云ひたい、果敢なき生涯を送つて居る。稀れに生れ來る偉人の地盤となり、肥料となり、準備となり、伴食者とならんために、假の生命を浮世に營み居る樣なものである。

斯くの如くに考へれば、偉大なる人物なるものは誠に意味深いものである。何百年に渉りて、幾千萬の個人の生存を藉りて始めて生れたる偉人の誕生は歴史上の一大事件であつて人生の光榮と云はねばならぬ。一人の偉人は千萬の凡人を一團となしたるものよりも高貴なるものにして、其誕生は人類歴史の機軸が新らしく据ゑつけられた樣なものである。

勿論偉人の誕生と云ふても生れながらにして偉人ではない。相撲取の候補者の樣に小供の時から甚しく人目に立つものではない。將來成人の後も、偉大なるべき人物の種子が一粒地に落ちたと云ふ計りであるから、此種子を見て直ちに將來の偉人なりと直覺することは決して容易なることではない。我等の『知らざる所の者の一人我等の中に立つて』居ても到底之れを悟らざるは致し方のないものである。

然しながら草叢に埋れたる花の姿はかくれても、洩れ來る香をたよりにそれと悟るが如く、將來の偉人たるべき未成品に對しても、何となく一種不思議なる感覺を惹き起すこともある。無邪氣なる小供にも天使の姿を認め、腕白小僧にも未來の壯烈なる行動を察し、一種の無意識的妙趣にわれと胸打たれることがある。

特に面白きことは將來必らずしも偉大たらざる者に向ひても、之れに對するに偉人であるかの如くに、之れを尊重し愛撫することである。これによりて人類一般の調子が何と

なく希望の光明に滿ち、清新の靈氣に溢れるのである。これあるがために、人生の凋落衰微、不淨邪惡が少からず減じ、其代りに生氣煥發し、清淨無垢が彌漫普及することゝなる。未知數なる萠芽に秘藏されたる無限絶大の生命を理想化して、こゝに完全圓滿なる人間の姿を顯さんとするは恒常不斷なる人間復活の新聲である。

況んやこれが確かに將來の偉人たるべきことが何處かに分明に表示された時に於ては、其幼少者に對する尊敬は決して尋常なるものではない。皇子皇女が生れながらにして萬衆の景仰を一身に集めて居る所以のものは、一部此種の意味が表示されたものと見るべきであらふ。門閥權家の小弟にして既に斯くの如きであるから、これが將來萬代に敎化を垂れ、德風を興す人格たるべき者に對しては誠にこれ以上の深遠なるものがある。

さりながら天機は容易に洩らすからず、將來の偉人のやゝもすれば賤の伏屋や、馬槽に呱々の聲を擧げ、或は襤褸に身を包みて、巧みに其靈姿を隱して居る事を見てはこゝに人生の玄妙なる秘義の存することが分明である。將來の偉人に對して特別待遇を與へないのは、必竟するに一切の兒童を以て偉大となるべき可能性を具備して居ることを信頼して、これら凡てを將來の偉人として普ねく尊重せんが爲めではあるまいか。幼兒は悉く天國に入ることが出來るとは何たる貴重なる感想ぞや。人間の大なる可能性價値は實に此感想の中に收められて居る。

然らば何故に一切の幼童に對して斯かる尊重と信任とを與へるか。嘗つて幼童の中から世界に於て最も偉大なる人格が現出したことの經驗を有して居るが爲めである。其立派なる人格に接して人間理想の最良模範を見證せしことがあつて、玆に俄かに人間に對する評價が上騰し下等動物の標準まで降つたのが再び天使の標準まで恢復せらるゝことゝなつた。斯くて一般人類の價値は實に偉人の誕生によりて天の至尊なる御坐の前に現はれ得べきものとなつた。

あゝわれら偉人の誕生を想ふ毎に、エスコルの谷間の白骨が一陣の春風に吹かれて復活したと云ふ古話を思ひ起さゞるを得ない。せめてもわれらは偉人の誕生を記念して永く神の姿をわれらが心中にうつして見たいものである。

初雪や水仙の葉のたはむほど　（芭蕉）

家庭

孝子基督

赤星仙太

イエスこれと共に下りナザレに歸りて彼等に順ひ居れり其母これらの凡ての事を心に藏めぬイエス知惠も齡も彌增り神と人とに益愛せられたり　（路二〇五一、五二）

クリスマスは幼なき基督の壽ぎである。其の聖い幼な顔に昔し偲び度きは山々だが、惜しい事には史料に乏しい。然し、筆致の何處迄も周到な路加傳記者が書き殘して置いた前掲數行は、世にも芽出度い語り草である。其の十二歳の殿詣から三十歳の出世間までを約めた言葉ではあるが、自から孝子基督の生長を斯と悟らせ得る。基督は天の父として神樣を紹介せられた、信仰は神に對する孝道である。知らず、基督は此世の親に對して如何であつたか。之は決して好奇な疑問では無からう。基督にして此世の親に能く仕へられなかつたとならば、其の愛の敎訓も權威を減じは爲まいか。

神と人とに愛せられたと云ふ、他人に愛せられた程の基督が如何して親に愛せられなかつたらう。親に從はれたればこそ、親にも愛せらるゝ。片言隻語ながら、孝子基督の面影が偲ばれ來るのでは無いか。

只に之のみで無い。苦み堪へ難き十字架上の聖言、猶も基督が母念ひの程を傳へて居る。聖母マリヤも早や五十路に近かつたらう、嘗め來つた辛酸に年にもませ、て、面窶れ爲て居たらう、艶なき白髪までがありし哀みを物語つたでもあらう。汝が產まむ子はメシヤぞとの天使の御告げも今はあだか、神に咀はれた奴隷の刑罰で果てむとして居る。マリヤたる者如何して涙なからう。居ても起ても遣る瀬なき其光氣を見られた基督の心に、何で悲痛の鼓動が波打たで止まう。如何に聖いマリヤでも此親子はまた格別、基督の衷情が其母に解せらるゝたつき、とても無い。霄壤も啻ならぬ違ひ實に甚しい。此十字架が復とあらぬ唯一の使命であるとは、基督ならぬマリヤに如何して悟られやう。剩へ、敵は基督の弟子及び遺族の一擧一動を怠らず覗うて居る親子今生の袂別、之にも優した悲劇が何處にあらう。「親思ふ心にまさる親心今日の音づれ何と聞くらむ」、痛切な歌ではあるが松陰の母には未だ締めの道があつた。

基督は始め敵の赦しを祈られた、次いで傍の賊を慰められた。斯て衷なる思潮の我へと歸る矢先、當然我が亡き後の母の御身上に及んだ。此母を托し得るは唯其の最愛の弟子ヨハネのみである、基督が殊更に此樣な事を云はれたには何か獨り身でマリヤを置くに危險な事情が在つたに相違ない。思ふても看よ、シメオンの預言に違はず、劍はマリヤの胸を刺した、埃及落ちは「敬虔歌」を歌ふた計りの聖母にとつて如何な悲みであつたらう。其から良人には死別れ、事志に副はで杖とも柱とも賴んだ「メシャ」には今此のみぢめな態で先立たれる。其の胸の

中を念ひ遣つての基督の心づくし、實に孝順の程察知するに余りあるでは無からうか。

路加傳第二章々末の片言隻語と今書いて來た事實とに依て、僅に基督の孝順が讀み得らるゝ、單に之れ丈でも基督の子心は裕かに悟らるゝ「我が來りしは地に泰平を出さん爲めに非ず」云々を垣間見て基督の人情を疑ふ様なのは、聖書讀みの聖書知らずなので、我れ知らず自分の修辭的智識の貧寒なのを吹聽する様なものである。然し次に掲げ來る三記事は、偶以て基督の孝順を危ぶに至るも無理ならぬ事であるから、猶數言を費して一層鮮かに孝子基督の面影が傳へ度い。

其の第一は、十二歳の殿詣である（路二〇四一—五十參照）。エルサレムを引上げて歸るさ、一日路の間知らで旅せしを怪るは男は男連れ女は女連れと云ふ猶太の習俗を知らぬ咎、扨て旅宿に着いて見ると基督は孰方にも居られない。ヨセフ夫妻は其夜の夢も結び兼ねて、明の朝早くエルサレムへ戻つた。其日の暮れ〳〵に着いたので、其夜は迷兒尋ねん便も無かつたらう。到頭神殿の中で基督を探し當たは三日目の事である。怒四分歡六分にマリヤは云た「あゝ御前は此處に居られしか、然りとだに知りたらんには斯る心惑ひは爲ざりし者を。然るにても如何なれば一言の申出も無く、斯くは親御を驚かせしぞ。我のみか父上さへ痛く憂へて尋ね喘ぎしなり」と。智しき面の何處となく耀いておるので時めける學者達も舌を捲いて居る様なのに、此際マリヤの胸も一種の誇に充たされたでもあらうか。マリヤは決して我が子を叱り得なかつたに相違ない。所が、聖書で見ると、基督の答が余りにそら〳〵しい。「何故我を尋ねるか、我は我が父の事を務むべきを知らざるか」。之が果して孝子基督の衷情であらうかと疑はるゝのも無理が無い。然し、忘れてならぬ事は聖書の承傳が極の妙略で然かも直譯風な事である。「何故我を尋ぬるか」と云へば何となく叱り附ける様にも聞こえるが、「然ありしか、其迄に御心痛めしとあらば赦し給ひてよ。然るにても我は母御忘れは爲じ、我れ故に然かく尋ね喘ぐには當らざりしものを」と云へば何處と無く愛情の移りて覺えらるゝだらう。而して「此處に留りしもあだ事の故ならず、唯神の聖旨悟らん術とも思ひしに。其邊の理り夙くに御心附きと覺えたればこそ、此始末にも及びしなれ」と敷衍せば何等怪しむべき節も無からう。或は、其では余りに文字を弱めたとの譏を受くるが知れぬが、由來此殿詣の時の基督の意識は決して然程深遠なもので無かつたから、上述の様に解した方が宜い。

第二にはカナの婚莚である（約二〇一—十一參照）使徒ヨハネ自身の婚禮との說も何となく怪しいが、何れ基督一家に余程近親の間柄であつたらう。不意の來客でもあつたか、葡萄酒が盡きかゝつた、之に氣が着いた世話役株のマリヤ默つて濟まされぬ。仍で基督の耳に口よせて、「彼等に葡萄酒なし」とさゝやいた、意は此場合我が子には何か宜き工夫もあらうと思つたからである。三十有余年の辛酸畢竟何の爲めぞ判然とは解せられないが基督にも志が立つた様だ。噂高いヨハネに受洗の爲めとて出で行いた身の、歸つてからの容子は何となく氣高い。加之其の伴ひ來つた四五人の青年身裝は卑しいが之も我が子の鑑定と見えて何處とな

く眞率で如何にもつゝましい。あはれ彼の夕天使の告げの今果さるゝのでは無からうか、果して然らば今何か不思議な能力を現はしたなら其が出世の緣ともならう。斯く思ふは親心、基督とても其を悟られぬ譯でも無い。私情から云へば何か人目を驚かして此祝筵の急を防げば幾らか母御が多年の勞苦にも報い得る次第。軈ては自分に歸依する者もあらうが、基督は之を望まれない、神の聖旨は其で無い。人間恩愛の危微實に其間にあるが未だ時至らぬと知る基督は斷然卻けられた。讀者は其言葉のあら〳〵しきを咎めないで、之を云ふ基督胸中の苦しさを察し遣らねばならぬ。基督は親ながら一伍一什を打明けた所で到底明せられぬ事を知つて居られるから、猶更辛い。「婦よ」とあるも敬語故怪しむべきで無い。「爾と我と何の與あらんや」は角立つが之も遺憾乍ら、母御の惑と我れの其とは同じからず」との樣に云ひ和ぐれば聊かの疑義も無い。表向は母御の願ひを卻けられた樣だが、基督は密かに水を葡萄酒に爲られた。其間の思ひやり貴むべきでは無いか。暫らく血氣に逸る世才の青年と云ふを許されたい」其青年基督が洗禮を受け誘惑にも克たれていざ、之から人生戰場の門出を爲さうと云ふ矢先、靜かに三々九度の盃を干さぬ丈けの愛の奇蹟を爲された事は懷しくも亦奧床しい。

最後に云はうと爲たのは太十二〇四六以下の一段であるが、今は多く書く余地が無いから唯敎言を費して置く。「我母は誰ぞ我が兄弟は誰ぞ」とあつては荒立つても聞ゆ樣が、場合が場合である。其折基督は醇々として道を說かれて居る、外に母御か來られやうとヨハネが甦つて來やうと一向御頓着が無い。其樣な事に氣を奪はれて仕舞ふ者が惡い、母御が來たとの通知で說敎を廢めらるゝ樣な基督では無い。之れ丈け云ふたなら此一段の疑惑も解くる事と思ふナザレの人には蛇蝎の如くに忌み嫌はれ、果は氣でも狂ふた樣な噂のある我が子の上を案じてのマリヤの來訪、何で基督が之を痛はしいと思はれぬ事があろう。

以上は、孝子基督の面影を垣間見たに過ぎぬ。世或は基督傳中の片言隻語を擧げ來て基督の眞情を疑ふ人もあるが、其は時と場合とを考へぬより起る誤解である。要するに、十字架上の母思ひ軈て孝子基督の哀情を披瀝し得て余りありと云ふべしである。

加納家家人の心得（續き）

安井哲

取次

取次をするといふ事は容易な樣で、其實中々難い者であります。訪問者の種類を能く見分けて相當の禮を施さねばならず、又訪問者と主人の意を誤りなく双方に傳へなければなりません。是等は能く心の練れた者でなければ適當に出來ぬ事で御座ます。禮儀の正しい召使を見ます時には、其叮嚀な主人が忍ばれ、橫柄な取次を見ます時には、其主人の不遜を思ひやられますから、平生其召使に禮儀作法を敎へて置くといふ事は最必要であります。加之主人が不在の折にも能く訪問者の意を通じ得る樣に、要領を得た取次を致しませんと、後になつて主人が困る

ことが御座います、例ば訪問者の宿所を聞いて置かなかつたとか、訪問者が何人であるかを問はなかつたとか、申します時には、主人は是等の人々に訪問の意を問ひ合はせ、又は其意に返事をする事が出來ません。女學校に通ふ生徒でも時とすると氣のきいた取次の出來ぬ事か御座いますから、召使などに出來ぬのは無理は御座いません。其故に主人は豫め種々の場合を想像して、大體に取次に關する注意を與へて置きますのは、訪問者に滿足を與ふる爲めと、又主人自身の便利の爲めにも必要で御座いませう。加納家が茲に注意せられたのは、誠に感服の外は御座いませんので、下に其個條を擧げて見ませう。

　三番の電鈴にて玄關に出づる時は、襷を外し敷臺に立出で、相當の禮を行ひ、先方の口上次第にて左の應接を爲すべし。

一、主人又は家族へ面會せんとて、在否を問はれたならば一寸「伺て參り升」と答へ、且見知らぬ人ならば、名刺を受取り奥へ退きて口上を取次ぐべし。

二、先方にて日又は刻限を取極め、再び來る旨を云ふとも「此方で御約束申上げたのではありませんから、御當にはなりませぬ」「前以て電話で御照會になつては如何です」と答ふべし。

三、合力を乞ふとか、何を買上げて呉れろとか精求して來た人ならば「從來出金して居る御場所の外は、一切出金を御斷り致して居り升。奥へ申入れる迄もなく、直ちに御斷りを致せと豫て申付けられて居升から、惡しからず御承知下さい」と明らかに斷るべし。

雨戸の開閉

　仕事は順序よく致します時には、誠に便利で御座います。西洋の家庭で、家事の能く整理されてありますのは、感心致すところで、非常に時間や勞力の經濟となります。そこでかく秩序よく仕事を排列致しますには、頭腦の明かな人でなければ出來ません。それ故主人が親切に仕事の順序を考へ、勞働する人々の勞力と時間の儉約にもなり、又家人の便利にもなるといふ様に、細大の仕事を排列致します事は、家事の整理上最必要な事で雨戸の開閉の様な細かい事にまでも、能く綿密な注意を與へられましたのは、誠に親切な事で御座います。今其注意の數個條を下に擧げて見ませう。

一、朝は通常日の出頃に雨戸を開くべし。

其順序は第一は客の間の表裏、第二は玄關及廊下、第三は茶室、第四は化裝の間とす。書齋は主人起床の時に開くものとは。

二、當朝天氣なれば、客間の戸を開くと同時に、日除を張るべし。午前十一時に至れば日除を收むべし。

三、大風又は雨天の朝は、茶室の戸を開くを要せず。客間は戸を開き、硝子戸を鎖すべし。

四、主人又は家族の中拂曉に他出する事ありとも、雨戸は定刻に至りて開き、夜明け以前に繰入れて近隣を驚かす可からず。

五、戸締は點火の刻限に爲すべし。其順序は第一茶室、第二客室、第三廊下、第四玄關、第五書齋、第六化裝の間とす。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

六、雨戸には一々「サル」を施し、殊に最終の一枚には上下の「サル」を施し、且締張棒を以て、確實に之を支持すべし。若し「サル」の掛らざるときは、更に一枚々々締方を改めて叮嚀に之を施し、結局不工合となりたる時は、直に家長に申出づべし。

七、夏期の戸締は、第一に茶室、第二に玄關とし、其他は家長の指揮を受けて、閉鎖すべし。

灑掃

人の目に立ち易い所を清潔にし、余り目立たぬ處を等閑にするのは、吾等の陷り易い傾であります。例ば室の隅々を能く掃ふ事や、細かい道具を一々叮嚀に取除けて棚などを掃除致します、事は面倒で御座いますから、よい加減にして置くとか、又は道具の取扱ひ方を亂暴にして、損害を與へたりするのは、心なき人々の爲す所で御座います。椅子とか机とか、棚の上の道具とかを一々側に移して、掃除致しましたならば、是等を再び舊の位置に戻して置き、書棚の書物を出したならば、初の場處に返へして置くといふ事は、容易の事に見ねますが、實際は中々難い事で御座います。此の如き仕事は、眞面目で、綿密な性質を有つて居る人でなければ、出來ません。私の實驗に依りますと、人の目に立つ所のみを整頓して、目に觸れぬ處を亂して置いたり、又は荒々しく物品を取扱ふ樣な人々に、賴母しい性質は見出されません。かゝる人は大きな事でも小さな事でも、不眞面目にする人で御座います。以下擧ぐる所の項目が如何に注意ぶかく陷り易い弊害を戒めてあるか御覽なさい。

一、洒掃は雨戸の繰入れに繼ぎて之れを爲すべし。

二、「ハタキ」は障子の「サン」に積れる塵を掃ふに在り、故さらに障子の紙を敲くの意味に非らずと知るべし。

三、「ハタキ」は棚や「テーブル」椅子其他家具の塵埃を拂ふ爲めに、用ふるものなれども、床の間や、書棚や違ひ棚は、家長の指圖を受けて特別に掃除し、決して「ハタキ」を施す可らず。其他の道具類にても、「ハタキ」に觸れて倒れたり墜ちたりする虞れある者は、叮嚀に片脇に移して、掃除すべし。

四、椅子卓子等を他に移して、掃除する時は、其脚が壁又は建物の張紙に觸れて、破損を來さゞる樣意を用ふべし。

五、廊下及椽側の雜巾掛を爲すとき、「バケツ」又は桶の水を其處在に零し、又は雜巾を絞るとき容器の外に、水を滴らさぬ樣注意す可し。拭ひ終りたる後一回其場處を見廻りて、水の滴あらば叮嚀に拭ひ去るを要す。

子女教育に對する母の務(其三)

海老名みや子

出産

今回は愈々産婆のお講釋をする廻り合せになつた樣ですが、さて考へて見ますると、素人の私が、生かじりの講釋もつまりませぬから、やはり自身産婦として の立場より申上外るはありませぬ。出産は我々男女が新家庭を設けて間もなくに來る可き一大事件であります。しかして二回三回若くは七八回もつとお芽出度ければ十幾回と起る事でありまして、其都

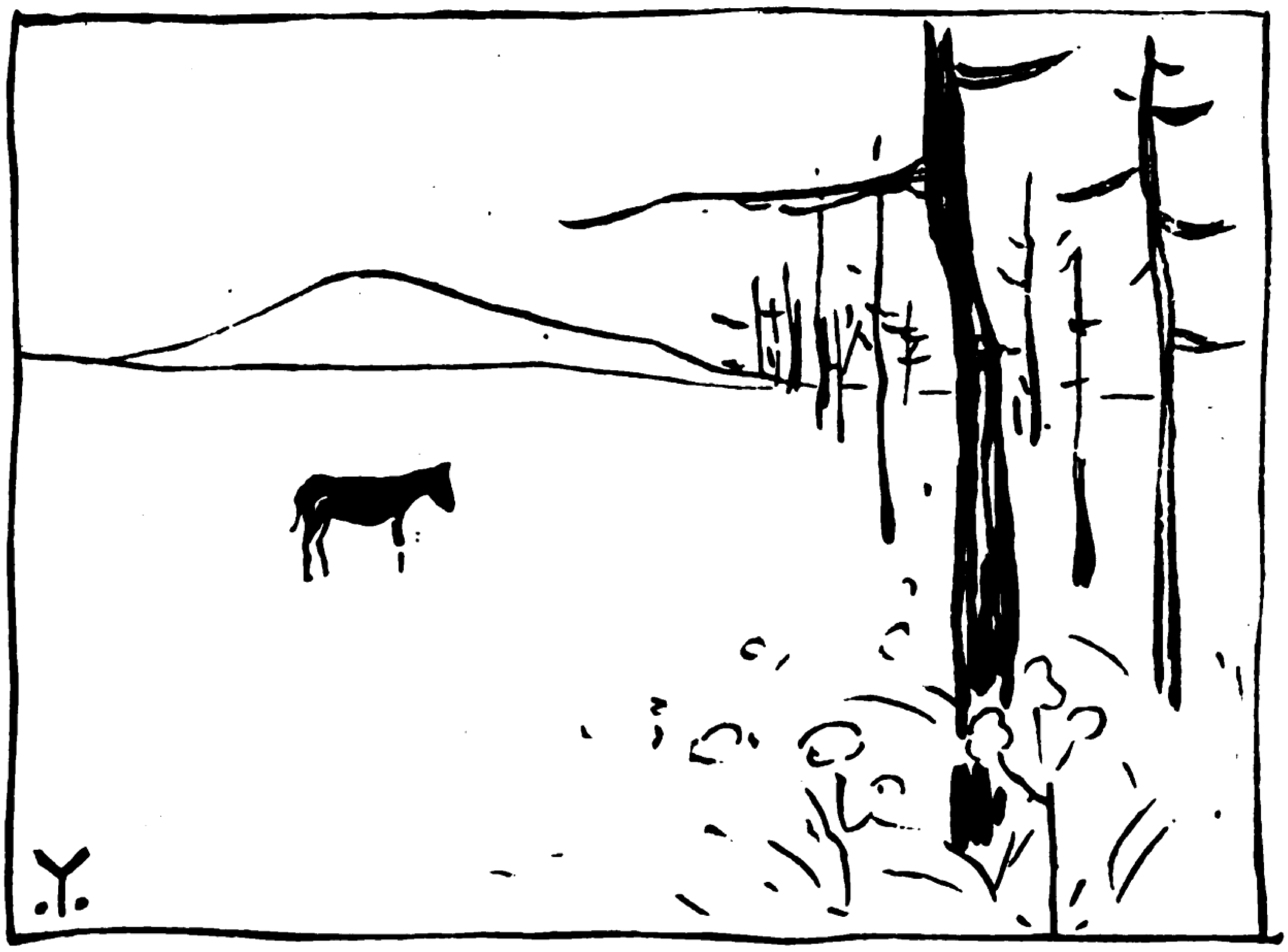
度に尠なからざる費用と心勞と骨折とを拂はなければなりませぬ。故に費用も少なく、心勞骨打も薄くして、此上の寶を買ひ得る女は賢き妻たる資格の一つを慥かに有するものと思ひます。さてこのお產の仕方も樣々あるもので、かくてもすめばすむものかと思はれる一二の例を一寸お話して見ましやう。之は私の幼い時の事で、ある縣の高等官を務めて居られた方の奧樣ですが、仲々元氣な方でしたが、或る時お產があつたとの事で、私の母は兼て懇意にして居ました事とて、直樣お見舞に行て見ますと、如何でしやう、產婆もお醫者の手も借ず、何も彼も御自身獨でやつてしまつたといつて、平氣な顏をして居られたと、母はさも／＼驚いて家人と話して居ましたのを小耳にはさんで、今に記臆して居ります。今一人、これは昔の事ではありませぬ。嘗て私が住つた家の近所に三四十圓取りの官吏の人があります、子供も二三人ありますが、元より妻君の手一つで何から何までやつて居られますが、お產をすると如何するかと申ますと、二日目位から魚屋八百屋の應對の聲が聞ねます。三日目からもう起き上つてそろ／＼勝手元から、生れた嬰兒の襁褓の洗濯一切萬事をやつて行かれる樣ですが、如何に氣丈な人だと申て、どうして出來るだらうと餘所ながら心配で、はら／＼した事がありました。極々の下等社會では斯樣な例は幾らもある事ださうですが、苟も多少の敎育も受け、一通りの辨ある人が斯樣な眞似をすべき事ではありませぬ。又眞似られる事でもなからうと思ひます。然ればと申て余りに大切に、余りに億劫に、多くの人手と費用とを消費する事は、決して擧めた事ではありませぬ。そこで私は初產の方の爲に一つの例を擧て先づこの位にしたならば相當だらうと思ふ處を申て見ましやう。

五拾圓前後の收入ある新夫婦差向ひの家庭

これは新學士若しくは高等な專門學校を卒へて間もなく設けられた新家庭と思し召せ。先づ一番に新御夫婦に一寸お說敎をして置かなければなりませぬ。それは外の事ではありませぬが四五拾圓の收入では女中は使へぬものと覺悟を極めて頂く事です。只節險といふ事からばかりでなく、實際豫算が立ちませぬ。又夫婦差向ひで飯事の樣な新世帶を手づからするのはそれは／＼樂しいもので、學校でお學びになつたお料理の實習、扨は雜誌と首引のお煮物、遣損ねて旦那樣に笑はれるもお樂しみの一つ、手にひゞ切らすもよい修行です。旦那樣も亦少しはお手傳をなさるも宜しいと思ひます。奧樣が朝早く起きて炊事を成さる間に火鉢に當つて新聞ばかり見てらつしやらないで、御自分のお書齋やお坐敷位はお掃除遊ばせ。どんなに愉快で朝の御飯もおいしいでしやう。男子が余りこせ／＼とこまかい事までおせ話をやかれるも見よいものでもありませぬが、やれお目覺だお手水の湯、やれお出かけだおはきものと一家總立ちで旦那樣に掛り切るのも、隨分迷惑なものです。之れは封建時代に多くの召使も使つて、お米の價も知らずに居た時の余風、當節柄一人の手も省いて、そして一通り世の中にも立交りて行ふといふには旦那樣も、手數を少なくする樣に、前に申た通りのお手傳して頂けば如何に

助かるか知れませぬ。先づ女中なしのこんな内ではお産の時は如何しますか。

昔初産は多く里へ行てしたものですが。之れも昔の風で、やはり自分の内と定めた家でお産をする程よい事はありませぬ。が、お産間際になると如何しても人が無くてはなりませぬ。お丈夫でお手すきな阦様や姑様があつて、手傳つて下さるとおつしやればこれも結構ですが、あまり身近い方にお世話になるのは氣兼なものです。又お世話下さる方も心配でたまらないさうです、成るべくは他人で慥かな人に世話をして貰ひたいものです。それで出産一ケ月程前には是非來てもらつて氣心も知れ勝手の樣子も心得て、いざとなつても夫々手順を運ばす丈の呑込をつけておかねばなりませぬ。この人を得るは何より大切です。この人が出來れば先一安心其次は家中奇麗に掃除をし夫々片付ていつ何時自身で寢てもあれば何處これは其處と直に分る樣にして置き度ものです、わけて產室は丁寧に掃除をし細かい道具は他室へ移し出產に入用品と嬰兒に入用品丈置く樣にしたいと思ひます。若し以前傳染病でもあつたらば今一度改めて消毒する必要があります。



寢卷や寢具は新調するにも及びませぬが。凡てをよく〳〵洗濯して日光に晒らし清潔な風呂敷に包んで產室に仕まひ置ねばなりませぬ。家に珍客を迎へんと致します時は、先一番に家の掃除をするではありませぬか。況や我家に小天使を迎へんとする此時に當つて、凡てのものを清潔にして待うけるのは當然の事であります。幸にして双親に遺傳の病疾もなく、健全なる母胎に、安泰に十ケ月を過して、安らかに生れ呱呱の聲を擧け、先づ呼吸する空氣には幾多の黴菌を含んで居るといふではありませぬか。其他水にも土にも凡そあらゆるものゝ中に、如何なる毒菌か含まれて居るか分らないのであります。此恐るべき毒多き世に此無垢なる天使を迎ふるのであります、玉の樣な身に恙あらせない樣にあらゆるものを清潔にして保護するのは第一親の務です又親の身も出產の爲に弱つて居ます。此時にはあらゆる毒菌が犯し安くなつて居ますから、毒に觸れない樣、綿密なる注意を要す。

清潔は實に此可憐なる嬰兒と疲れたる母親とを保護する唯一の盾である事を忘れてはなりませぬ。

一身の事は熟練なる産婆に托して安心して居るが宜しう御座います。平産か異常産かは前以て産婆は診斷する事が出來ます。平産なれば醫師を頼んで置く必要はありませぬが、是等の事は産婆の指圖に從ふがよいと思ひます。案ずるより産むが安いで、決して心配する程のことはありませぬ。然し成る可くは産後一週間位は熟練な看護を受度ものです。三日間でもよろしい、先づ自分で少しく自由のきくまで。そして此看護婦は嬰兒を最も上手に懇切に世話の出來る人でなければいけませぬ。之れは私が染み〴〵感じた實驗でありますが、産婦は何の心掛りもなく、靜かに充分に眠らして貰らへばずん〴〵肥立ものです。それには嬰兒の世話を上手に丁寧にして貰らふ事が肝腎です。夜中安眠して居る時に嬰兒がなきますと、まづ先に目を覺すものは産婦です。其時に程よく其子をあつかつてくれますと産婦は安心してまだなき止まない中にも眠れる事もありますが、それに反して其あつかひが不安心で任せられはい氣になると、あれこれと氣がもめて、眼は次第にさへ寐むれなくなつて仕舞ます。そうすると翌日吃と疲れを覺へます。それで、この看護婦は産婦が安心して嬰兒を托して居られる様な人でなければいけませぬ。

これを約めて申ますと、出産一ヶ月程前に信任すべき女中を頼み置く事、室内及び凡ての用具を出來る丈け清潔になし置く事、出産後三日乃至一週間熟練にして懇切なる看護婦を依頼する事等です。食物其他身體の扱ひ等は凡て産婆の指圖に從つてするものとして何も思ひ煩ふ事はありませぬ。

序に良人に向つての産婦の願ひを一つ申て見ましやう。西洋では良人が産婦の側に居て産婦に力を添へて與れるそうですが、嚴格な家庭教育を受けた我々日本婦人として、同室に居て苦痛にとり亂した姿を見られるのは恥かしく心苦しい事であります。故に無論其室には來て貰はない方がよろしい。と云つてあまり遠くに逃出されても心細い様ですから公の用向や已み難い事の外は内に居て大體の指圖をしてもらひ度と思ひます。そして嬰兒か初湯を終り先づ一番のお目見わは父親でありたいと思ひます、然して此新らしき父と母とはもろともに此貴き賜を謝し幼兒が世の塵にも汚れず清く生立つ様祈り度ものであります。

雪いと高く降りたるを、例ならず御格子まゐらせて、炭櫃に火を起して物語などして集り侍ふに、少納言よ、香爐峯の雪はいかならんと仰せられければ、御格子あげさせて、御簾高く捲き上げたれば、笑はせ給ふ。人々も皆さる事は知り、歌などにさへうたへど、思ひこそよらざりつれ。（清少納言）

ゆきあたりばつたり集

内ケ崎　作三郎

七　日本までは何マイル?

今年の一月のはじめの二週間をロンドンの貧民街に送つたことがある。同市の東部及び東北部には救貧事業が發達して、マンスフィールド館とか、オックスフォード館とか、ケンブリッヂ館とかいふ大學殖民館が幾つもある。僕はそれ〴〵紹介を得て、是等のいづれにか宿泊し得たのであつたが、貧民の實生活を知るには却つて不都合な點もある樣だから、ある牧師の好意にて正直なる勞働者の一家族の二階の一室に置いて貰ふことになつた。家族の人々は朝早く出懸けて、夕方歸つて來る。留守居役は六十程の御婆さんが一人。一夕僕は例の視察より歸つてコツ〳〵戸をたゝき音をさせたが、御婆さんが出て來ぬ。盛にコツ〳〵やると、棟續きの隣家の婆さんが、出て來てあなたのお婆さんは籠をさげてゆかれたから買物でせう。今に歸つて來ませうといふ。殘念のためにその婆さんが自分の家の鍵で僕の家の戸にあてゝみたが、合はぬ。仕方がないから薄暗い瓦斯燈の下に佇んでゐた。すると近所に遊んでゐた貧民の子供達が追々と僕の周圍に集つて來た。無遠慮な小倅は何時か日本人を日曜學校でみたことがあるなどゝいふ。十二三才を頭に十五六人の少年少女が、何か面白い話でも聞かせられたがりて、僕の顏をみつめてゐる。そこで、日本まで何マイルあるかと聞くと、いづれも思案顏だ。十位の悧巧そうな兒が三百マイルと答へる。クス〳〵と笑うてゐるのもある。それ所でないといふと、五百マイルといふ聲がある。ノーといへば八百哩と順上げをする。また〳〵といへば千哩といふ。あとは二千哩、三千哩と數へてもまだ〳〵といはるゝので、皆眼をキヨロ〳〵させてゐる。最後に八千哩といへばビツクリ顏だ。かゝる問答の最中に御婆さんは野菜物や肉をさげて歸つて來た。僕は中にはいる。子供達はグード、ナイトを連呼して散つてしまつた。それ以來、近所合璧の子供達と中好となり、僕が一人トボ〳〵と夕やみの町を歸つて來ると、グートエブニング、サア、などゝ挨拶する兒が幾人もあつた。

八　やつと切り拔けた子供の包圍軍

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ロンドンの北方にクレ・ルモント館というて、會衆派傳道會社が全力を擧げて經營してゐる社會事業の一大中心がある。一夕ガーヴィ博士に面語したる時是非一見したまへとて紹介狀を頂戴した。そこで或朝出かけてみた。大した建築で表門が大通りにあり、裏口が他の通にある。即ち一町も長い大會堂である。書記なる人が親切に案內してくれた。勞働者の妻達の赤兒を預る室もある。娘達の音樂室もある。萬事萬般に整頓したものだ。最後に二階に大きな食堂がある。丁度一時近い頃で、二百人分ほどの皿やら何やらが用意してある。聞けば附近の貧民小學校の生徒に肉汁の御馳走をする所だといふ。然らば待つてゐて拜見さして下さへといへば、おやすいことだと答へる。やがて校長の老婦人が來て入口に立つてゐらるゝ。一時になるや否や、多勢の少年少女がドヤ〳〵裏口の階段から登つてくる。校長さんは折々僕にあの兒の着物をみよとか、靴をみよとか囁かれる。成程この界隈の貧民の兒供達のことゝて、きたない事夥しい。指さきのあらはれたる破靴もある。したゝかにつぎをあてたる破れヅボンもある。幾週間か洗つたこともなさそうな髮の少女もある。朝飯を食はせられなかつた樣な瘦せて靑白い顏もある。一度着席すると、校長さんが、感謝の歌をと命ずると、いづれも殊勝らしく頭を下げて、靜かに歌ひ出す。これが濟むと、飢いたる虎の餌を求むるといふ調子でスプーンを手にして肉汁の皿に突貫する、パンに噛りつく。ものゝ十分も立たぬ間に食事が終りかけた。すると校長さんが、僕に何か感話をのべて下さいと賴む。斷ることも出來ず、日本は英國の友達である。日本の子供達はさぞ皆さんに遇てみたいだろう、日本の子供達は大きくならば英國を見物しに來ましやう。皆さんも勉强して、立派な基督者となつて、日本を見物されるほどにお金をためなさいなどというと、解つたか何んかは知らぬが、小さい手を盛に拍いた。校長さんは私の學校をみて下さいとて、紹介の名刺をくれられた。禮を述べて外に出ると、丁度食堂より下りて來た子供達が三四十人僕について來る。君等の學校は何處にあるかと聞くと、案內しませう〳〵と異口同音に答へる。通り掛りの人々が不審がつて見てゐる。しかし食事をせねばならぬから追付け行くからとあしらつて、やつと子供達の包圍を脫した。

九　貧民小學校で杜甫の詩吟

近所の料理屋を探しても見つからぬ。貧民街だからそんな都合の好いものはないのだらう。足にまかせて歩くと、一軒の安料理屋がある。東京ならば繩暖簾とでもいふ格だ。七八ペンスで食事をやつて、貧民小學校へと志す。中年の女教

師が出てゝ來て、色々説明をする。やがて、午後二時の授業が始まると、先づその敎師の受持の女子の組に案内された、これといふ望みもないが、仕方がないから、讀方をと所望する。二三人の女生徒が讀む。此度は三階の大運動室の體操をみせられる。女生徒の樣々の遊戯が中々に面白い。この時婦人の學校醫が來て、生徒を檢分する。日本にはこんなきたない子供はないでせうなどゝ聞く。日本人は奇麗好ぎてはあるが、貧民の子供達は其際西洋人が想像するほどに淸潔であるかは問題である。そのうち副校長なる老年の紳士が出てゝ來て、御若いに社會事業の御研究とは感心ですなどゝいふ。僕を二十二三の靑年だと思うたのであらう。難有いことだ。私は校務多忙ですから一々御案内が出來ませんが、ゆつくり御覽あれというて男子の組に僕を紹介して自ら椅子をとりて來て僕にすゝめた。受持の敎師が何が御望みと聞く。唱歌をとのそめば、授業最中の算術をやめさせ、姿勢をなほさして、何とかいふ一曲を歌はせた。それが濟むと敎師が一席の演説をとのぞむ、また日本の唱歌を聞かしてくれまいかと賴む。そこで何か一席の話しをして、終りに杜甫の「子房未虎嘯」の古詩を吟じた。随分僕も無遠慮だと思うた。これから地理の組や發音の組をみて、午後三時半頃に學校を辭した。こんな風に見物して來たれば異邦にあるも一興だ。僕はこの多趣味なりし一日を未だに忘るゝことが出來ぬ。

聖誕（一幕）

秋生譯

ベツレヘムの近郊、傾斜をなせる一帶の原野、遙に丘を望む。夜、空には豫言者により豫言されたる彗星出現せり、牧羊者ヨアブ、シメチン、オニアス、エリアキム等舞臺右側樹陰の石に踞す、その背後に當りて家畜を入れたる小舍の一端を見す。

第一齣

（牧羊者四人、後にヘロデの臣にして土地管理者アゾル及其從者登場）、

ヨアブ（話に熱中して）　彼の人は眞心籠めて俺等に話して聞かしただかね、俺等もよく注意して聞いて居たゞよ、其所へそれ目付の者が跳込で突然彼の人を捕捉へて牢獄へ引摺込んだぢやねえか、槍や笞で酷く打つたで堪らねえやな、足の先まで血か流れたゞよ、

コリアナム、　彼の人が眞理を宣傳へたさいふだけのことでなあ、

オニアス、　それより酷いことがあるものか、なあ、

シメオン、　俺等の一生といふものは畜主よりも慘じやねえ

か、

ヨアブ、　俺等が番を拜命つてる家畜奴には飼草も澤山給れるし、酷いことがない樣にと牧人をつけてあるんだぞ、

エリアナム、　だがよ、誌てあるじやねえか『神は吾等をも育み給ひ――

メニアス(洪笑しつゝ)　勝手にするがいゝや、

エリアナム、　『また吾等にも糧を與へ給ふ』とあらあな、

ヨアブ(激怒の心地にて)　糧か、へい飼草といつたがえゝだ、

シメオン、　だけどよ、若しかして俺等が家畜を蹴たり叩いたり爲たとして見ろ、何うなるだか、磔刑だらうじやねえか、

アゾル(鞭を持てる奴隸十人許を隨へて左後方に登場、立聞すること、牧羊者等心付かず)

エリアキム、　俺時々斯麽事考へるだよ、齢をとつて働らけなくなつた日には貧乏して乞食の樣になつて永く苦しむよりは死んだが寧ましじやねえだかとよ、

オニアス、　俺等は皆路傍で野倒死するじやねえだかよ、垣根の陰に隱れて死ぬるんだ、病氣に捉つて見ろ、誰一人見向もしめえ、醫師だつて貧乏人を救けることはねえだからなあ、

ヨアブ、　醫師といふものは富者と權勢のある人の爲めばかりだ、彼の人の言つたのは嘘じやねえだ、斯う言つてたぞよ『自分のことは自分で爲ろ、汝等の腕には骨があらう、上に立て血を絞る犬奴に反抗して汝等の生命を護ることを何故しないのだ、仕事なんぞ止めて終へ』、そして救主が乾度來る、宮に生れるでない、王の御殿に生れるのでない、貧乏人の小屋に生れるのだ、さうでなくては貧乏人が何れ程苦しんで居るか解らねえからだと說いて居たゝよ、

アブル　手に鞭を持ちて進出で)　よし、貴樣が發起人だな、

牧羊者等(驚愕して跳上る)　大變だ、アゾルだ、アゾルだ、

アゾル、　左樣じや、アゾルじや、貴樣等に分儕を思ひ知せる爲のアゾルじや、貴樣等に精念を入れてやるわ、畜生にも劣つた怠惰漢、(ヨアブに向ひ)うぬ、貴樣の上を忽にした口のきゝ樣、其の舌の根止めて見せるぞ、(奴隸に命じ)捉へろ、(ヨアブ後ろ手に縛せらる)見せしめの爲めベツレヘムの街中に梟して置くのだ、(他の牧羊者等に笞を加へつゝ)汝等、よくも此麽奴の言ふことを聞き居つた、

ヨアブ　(抵抗の心持にて)　いつ磔刑にされますだが、

アブル、　唯今じや

ヨアブ、　審査もなしにですかい、

アブル、　なに、審判だと、そんな事で愚圖々々して居られるか

かい、

ロアブ、だか、なあ旦那、私にも妻子があるだで別離をさせて下されい、

アゾル、汝が何時迄も歸らなんだら、渠等も氣が付かうわい、でなければ通り掛りに貴様の吊下つてるのを見たら分るに違ない、

ロアブ、女房は病氣だで私が居なければ親子一緒に餓ゑ死んで終ひますだよ、

アゾル、そんなこと俺が知つたことかい、いらざる言をきかねばいゝんだ、さあ起て、愚圖々々爲るな、

ロアブ(地に打倒れて) この通り御願申しますだ、何卒唯の一覽、

アゾル(踏み躙りて) 余計世話をやかすない、畜生奴、

ロアブ(立上り切齒する) いゝだ、磔刑にしなさい、だが御前達の首もあるめわぞ、

アゾル(奴隷に向ひ) その畜生引立て往け、(牧人等に)貴様等もこんなことがない樣に氣を付けろよ、(ロアブを追ひ立て行く奴隷と共に左後方に入る)

シメチン(手を揉みつゝ) 神樣はもう俺等に目をかけてくれないのだか、

オニアス 俺等を忘れ終つたゞ、捨て終つたゞ、

エリアキム だが、俺等は可愛相な同胞の子供のことを忘れめわせ、俺はパンの一片でも頒けずには居られねわ、

シメオン 俺だつて同じ事よ、

オニアス 出來るだけは渠の奴にも力になつてやらなくては、なあ、

エリアナム おゝ夜も更けて來た、家畜は皆集つたゞか、

シメチン もう一時間も前に、皆、小屋に這入つたあね、もうよく眠込んで鐘の音も聞こわやしめわ、

オニアス 俺等も寢べいかなあ、(右の方苔の上に横臥す) 骨が疲れ

て、もう云ふこときかねた、

シメオン(同じ樣にして)　今日が日は暑かつた、寢(ね)やうせ、明日の朝はヨアブの女房を訪ねてやらざあ、

オニアス(ふと星を眺めて)　あの星見たか、ベツレヘムの上に不思議な星がまた見ゐるだぞ、

シメオン、　善事(よいこと)の前光(しらせ)であつてくれゝばいゝがなあ、あゝあ——、

牧羊者等愈疲れて聲低く語る、

オニアス、あんな星は戰爭の前光(しらせ)だといふだが、やれ〳〵、

シメオン、戰爭なんざ眞平だぞい、

オニアス、戰爭が始つてはやり切れねな、

エリアキム(半ば夢の如く)　天が啓けて——天の階梯(きざはし)を天使が降りて——俺等に喜(よろこ)の音づれを——持つて來るわい(熟睡す)

シメオン、救主を——さうじや、

オニアス、俺等の醫師樣を——お、それ(二人とも熟睡)

(間)

イスカリオテのユダ登場、十八歳の少年、顏容蒼白、夢みる如く後ろに左方より進み出で歩きながら囈語の如く語る、

第二齣

牧羊者三人眠居る、イスカリオテのユダ、後に謳ふ少年の群、炬火を擔へる者、東方の三博士バルメザル、メルヒヨール、カスパル及從者登場、

ユダ、　それ、彼處に星が煌(きらめ)いて居るぞ、その光芒は神の指の如くに市(まち)の方、さうだ吾家(わがや)の方へ向いて居る、かつては王冠が吾一族を飾つたこともあつた(靜に立止る)何でエホバが新にユダを呼起さぬことがあらうぞ、豫言者は何といつた、(熱心の氣味に手を膝において祈るごとし、眼を輝かし天を見詰む)『汝ユダヤの地ベツレヘムよ、爾はユダヤの郡中にていと小(ちい)さきものにあらず、我イスラヘルの民を救ふべき君爾の中よりいでん』(こがれにたへぬ心持、舞臺の右側後方に童幼の謳ふ聲)

歌

(いと高き處には榮光神にあれ
天の樂もて讃(た)へまつらん)

ユダ(豁然として)　何の歌?　神よ爾の御使でせうか、

歌(近く)

(地には泰平(おだやか)
永久の贖(あがなひ)御子(みこ)の血によりてならめ)

ユダ(身じろきもせで)　天の高きより降り來る樣な、

歌(更に近く)

(人には恩寵(めぐみ)、喜と愛とによりて
世の民草は一つになれや)

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ユダ（讃歎して右方を眺む）　王者の装にも似たる一隊ではある。

歌（漸近く）

（いと高き處には榮光神にあれ

地には泰平人には恩寵あれや）

ユダ思入深く最後の歌を誦む、第二節の終りに幼童の列謠ひながら登場右側より左後方に廻る、續いて炬火を揭げたる者、東方の三博士、光輝強く眩きばかりの炬火を揭げたる列隨ぐ、謠終りユダ復誦し終りて、バルタザル、ユダの前に立止り全列整然と並居る、

バルタザル（ユダに向ひ）　其處なる若人、あの星の煌く彼方の町はベツレヘムであらうな、

ユダ（愕きて）　左樣です、——何の用あつて行かれるのですか、

バルタザル　新に生れたユダヤの王を拜せん爲めじや、

ユダ（突然暗愁を浮べて、立ちすくみ）　何と、新に生れたとな、

バルタザル（やさしく寬大に）　さうじやよ、あれがその兆の星、あれを目かけてこゝへは來たのじや、王といふても血と火とを此世に齎らす王ではない、その恐懼は無用じやぞ、私はお前に喜の音づれを傳へるんじや、貧しきものゝ爲めに遣はされた救主は今日生れられた、深い艱苦と卑賤の身をうけて馬槽の中に居られる嬰兒が、其の千歲凡ての人類を支配せられる御方なのだから私等は榮光を拜したくて、黃金乳香没藥等を持つて參つたのじやよ、

ユダ（衷心したるものゝ如く殆ど打倒れ居りしが突然蹶起し慈に耐へず打慄きつゝ嗄れたる聲にてや、高調に先の歌をくりかへし謠ひ、醉俯の如く）新に生れた王だと、何の、思もよらぬ。（急ぎ列を過りて町の方へ行く）

バルメザル、　彼の蒼白い若者は何うしたのだらう、

メリヒロール　私は彼の男の前に居ると何だか斯う恐ろしく感じました、彼の眼にはヘロデ王にあると同じく恐ろしい獸の樣な猜忌の輝が見ゑました、

カスパル、　御子を拜したらば歸りませうぞ、

バルメザル、（調子を合せて）　王に告げてはなるまい、さうじや、エルサレムには不幸が萌して居るわい、行きませうぞ、寶を載せて駱駝はもうベツレヘムの入口に着いてることであらう、幼童だち、も一度謠ひませうぞ、

（列過ぎて左方に入る間歌さその反響をきかす、間）

ユリアキム（中夢みる如く）　いと高き處には榮光神にあれ、

シメオン（同）　あゝ何と壯な輝、

オニアス（同）　そして銀白の翅の音は、

エリアキム（半身を起し）　果てな、夢であつたか、

シメオン（眼をこすりつゝ）　夢だぞい——だが明々と、

オニアス（同）　愉快な、さても不思議な夢だぞい、

エリアキム（起上る）　何んな夢みたたね、

シメオン（同）、俺夢みたゞよ、

オニアス（同）　俺もみたゞよ、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

エリアキム、してお前等も天使を見ただか、

シメオン　一群居たでねわか、

オニアス　天から翔んで降りた、

エリアキム　歌を謡つて、

シメオン（思入）一人の者がいふことには、

エリアキム　かう言つたでねわか『懼るゝこと勿れ、われ萬民に關りたる大なる喜の音づれを爾曹に告ぐべし、それダビデの邑に於て爾曹の爲めに救主生れ給へり——

シメオン（續けて）『爾曹布にて裹みし嬰兒の槽に臥たるを見ん

オニアス（喜極まり涙さへうかべて）俺の聞いたのも寸分違はねわだ、俺等も行つて拜むべい、

エリアキム、天使の歌は斯うだ『天には榮光神にあれ、地には平安、人には恩寵あれ』

シメオン、行くべい〳〵ベツレヘムへ、

オニアス　彼處に星が煌てるだ、

エリアキム　天使の歌を謡はうでねわか——『地には平安』

（神の力に導るゝ如く市の方へ去る）

○返し、

ベツレヘムの貧しき家。

舞臺後方開放したるせまき門街路より通ず、右の方槽に枯草、藁蓐など入れて嬰兒を寢かす。マリヤ頭をよせかけて其側に跪けり、屋内燈火なし、門の右方明かり窓より日光冴し入りてマリヤの窶れたる衣服を照らす、門の處にヨセフ立つ背高くいと强健なる姿、感謝、祈禱、讃美等をなし、靜に物語り居る忽ち謡と共に博士牧羊者等入り來る、

バルタザル、（謡の第二節と三節との間にて）御子はこゝに、皆の人讃美しなさい、拜しなさい、

東方の諸の國博士の從者の金器上に金皿すゑ香を焚く、他の從者黄金乳香沒藥等を槽の中に入れる、博士牧羊者等その前に跪きて歌終る、

（いと高き處には榮光神にあれ
地には平安、愛にひかれて吾等歩まん）

——幕

北窓の風にやれたるふるすだれ
めもあはぬまで寒き夜中哉　蓮月

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

さすらひ

佐藤澱橋

新阪は胡桃の葉かぐはしく繁り合ひ、
岩清水したゝりて草をうるほす。
關山の谷間や作並の温泉のうまみ湛へて、
五月雨のふる日にも底清き瀬をなして、
流れくる廣瀬川
胡桃の葉しげりあふ岸邊によどむ。

わが母はこの岸に少女となりて、
あまたある兄上や姉上のなさけのうちに、
流れゆく川波と荒れ果てし城址を望みたりけむ。
あゝされど（言ふもかひなし）さすらひの消し難き憂愁と、
哀別とちり〴〵に貧窮の小路行く家族にのこる。

さま〴〵の世の中を味ひし今の身は、
水清きふるさとを愛慕する歌もうたはじ。
あゝ夏は梅黄ばみ梨あまく、
枇杷熟れてたわゝなる涼しき木陰、
胡桃の葉かぐはしく繁り合ふ岸のほとりを、
わがなげきあさましく時にさまよふ。

信頼

楠男生

菩提樹のたかき小枝に
　鳥ありて巣をば懸たり。
風に巣のゆらるゝ毎に
　折々はあやうく見ゆれぬ。
（されど）信頼の篤き小鳥は
　うれしげに歌ひ囀づる。
樹の枝に巣懸くる事を
　敎へたるちゝの御神は
　いかでそを搖りて落さん。（ヨハネス・トロヤン）

○

大海原を越ゆれんとて
　母鳥と巣立ちし雛よ。
下空は荒れくるひ
　すさまじきあらし吹く。
何處にも陸は見ゆれず
　疲れたる翼は沈む
あゝ吾は何處に行かむ
　雛鳥はいたく嘆きぬ。
されど、子よ、悲しむ勿れ
　いと深きこゝろの底に
新らしき春をかちうる
　止みがたき念は湧かずや。
憧憬をあたへし神は
　吾等をば助け慰さめ
　綠なる森におかん。（エマスエル・フレーリッヒ）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

講壇

快活なる生活の秘訣

海老名彈正

西洋人と東洋人とを比べると西洋人は概ね快活で東洋人は沈鬱である。東洋人の中で最も快活と云はるゝ日本人でも西洋人に比べると余程陰氣である。西洋の青年には我國の青年の如き煩悶はない、呑氣である。其理由は一にして足らぬが、宗教上から觀察を下すと、東洋人は主觀的にして西洋人は客觀的である。故に東洋人は內へ〳〵と、我が心の奥を辿つて修養の功を積み、西洋は人外へ〳〵と事業を企てゝ建設を試みる。外へ向ふ者は快活で內へ入る者は悲哀を免れない。一は活動で一は沈靜である。內へ向ふ者は孤獨に成り易い。從つて其觀る所の神は孤獨の神で同情の神ではない。高い事は高いが、秋の空に冴ゑ渡る月の如く何となく冷に感せらる。之に反して外へ向ふものは、凡ての物が我と全く別でない事を認める。元來人は獨り離れてある可きものでなくて、必ずや衆に共に喜び衆と共に樂む可きものである。勿論孤獨でも徹底すれば、孤獨以上となる。けれども大抵は寂しくなつて了ふのである。手近く云ふて見ると、利己主義の人は幸であるかと云ふに實はこれ程不幸な者は無い。天下を敵とする者は幸じやない。妻を敵とし、友を敵として立つ者に何で幸福があらう。所が基督の精神即ち我から彼方に盡す態度を取ると、其心は豐に、ふつくりとして何時とはなしに快活になる。家庭の中でも夫婦ぎりで子の無い者は氣樂のやうだが決して樂しくはない、限りなく心寂しい。然るに子が出來ると一時にパット花が咲く。二人が全身を捧げて愛する者が出來ると潑溂として來る。一人ばかりでなく、段々と殖ゑて四人とも五人ともなつてくれば、厄介な樣だが其處には深い意味に於て喜悅がある。世に獨兒は無い方が況しだと云ふが、これは子を思ふ親の心の切なるをいふたものである。子が多くなる

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ど又世話も心配も増して夜も碌々寝られぬ事がある。けれども其母は快活になり、愈快になる。孫のふゑるのも同じである。更に進んで人間社會に入り心を開いて愛する者がふゑるならば、それ丈幸がふゑる譯になる。基督の福音は利己主義で見ては分らない。人を愛する事が其儘福音である。神の國を愛する事が其儘福音である。

近頃日本の青年に一種の苦痛がある。これは一にして説けないが、彼等は世間の事は置いて何もかも自分にあてはめ樣とする。此處に煩悶の一大原因がある。それなら如何して之を救ふ事が出來るかと云ふに、己を愛する許りでなく、人を愛するが必要である。故に此等の青年の心嬉しく感ずるのは、彼等が兄弟を思ひ遠い父母を思ふ其際である。相手のある中は喜の光が殘る。けれども親も死に兄弟も死んだ時は、其悲は救ふ事が出來ない。我が教會の會員にして淺間の噴火口に入らんしたものがある。彼は父母を失つた。兄弟を失つた、又叔父をも失つた。タッタ一人、實に孤獨の人となつて了つた。此世に居ても、つまらなくなつた。因て思ひ切つて噴火口に飛び込まうとした、其刹那に彼の頭に響いたものがある。自分は本郷教會の會員じやないか、自分の死んだら後に殘つた人々は色々心配するであらう。あゝ死なれない。恁う思つて彼は遂に助つた

先達死んだ前橋の宮内文作君の過去二十年は元氣の盛なる興味ある生涯であつた。群馬には幾多の知人もあるが、宮内文作君は正しくその一人である。上州は由來熱烈なる人物を出した。情感の鋭い人を生じた。宮内文作君は善くその氣象を顯はして居る。今より二十五年前私が前橋に行つた大火があつて、住吉屋と云ふ彼の家も燒けて了つた。然るに土地の博徒が嘗て文作氏に反抗された事を恨んで、住吉屋は火元であると云ひふらした。無い罪を被らせられて彼は火の如く怒つた。彼は眞面目な男である。憐みの心も深いが惡を憎んでは其儘にしない。彼は決心した。よからぬ人々を殺さなければならぬと。そこで始終彼は刄を懷にして機會を覗つて居つた。聞く所に依ると一人の聖書賣が此の事を悲んで羅馬書の「仇をかへすは我にあり……故に爾の仇もし飢ゑなば之に食はせ、もし渇かば之に飲ませよ」と云ふ一節を引いて見せた。彼は眞面目に聖書を讀んで考へた。而して遂に彼は敵を愛するは敵に勝つ所以であると飜然悟を開いた。而して彼は衆に先んじて洗禮を受けた。彼が罪もないのに罪ある如くせられた時、義氣にかられてその仇を殺さんとしたが、是れ蓋し彼れの本心ではなかつた。彼は前からも一種の愛他心があつたが、一度基督の靈火に燃ゑてより、本來の面目は遺憾なく發揮された。美濃の地震の時悲慘な狀態を見て同情に堪

ねずこゝに孤兒の爲に一生を捧げんと決心した。この前にも一人二人は世話したのであるあるが、この以後は實に二十年間一日の如くこれか爲に骨を折つた。彼は文字の讀めた人でない。唯一片の商人であつた。彼は熱烈なる元氣に富める傑物であつた。けれども亦やさしい所があつて、年は私よりも余程上であつたが、私を御父さん、御父さんと呼んで居つた。彼は獨り孤兒院ばかりでなく、憐む可き老人の爲に養老院をも立てゝ老先の短い人々を慰めた。然るに彼も死の手は免る事が出來ず、終に返らぬ人となつた。けれども驚いたのは彼の元氣な事で、一ヶ月ばかり絶食して居つたのに、毎日見舞に來る人々に大説敎をして聞かせた。私の訪ねたのは死する十日前であつた。併し少しも苦しい樣子もなく、先生私は來世の事が明白で、少しも疑はないと云つた所は、とても此人が明日をも知れぬ病人とは思はれなかつた。醫士もどうして苦痛がないのかと不思議がつたそうである、その病氣は胃癌であつて大苦痛を感せねばならない。しかも平然として居るその心膽は大學其他の青年の夢にも及はぬ所である。智識はあるも、精神の偉大なる點に於て、心膽の堅固なる點に於て、此一人の宮内に及ぶもの甚だ稀である。彼は毫も哲學の事は知らない。けれざも彼は信仰を告白して云ふた、

神は我等の父なり、人は我等の兄弟なり。

それは分り切つた事と云ふ人もあらふが、實は分らない。宮内氏のは智識ではない、信仰心あつた。彼れ亦よく人間の價値を合點して居つた。若し人世界中を得とも、その生命を失はゞ何の益あらんや、又何を以てその生命に易へんやと云ふキリストの言葉をよく合點して居つた。或時撃劍家で而かも壯士である一人の男が彼の家に宿つた。すると其壯士は酒を飮んで大言壯語して居つた。それを見て宮内老人は堪らくなつて、其坐敷に行つて憚りながら貴君は天子樣に不忠でありますと怒鳴りつけた。これを聞くや否や壯士は傍にあつた三尺を取つてにぢり寄つた。けれども彼はびくともせずに、良心から說き起して酒を飮んで自己を欺く所以の不可なる事を述べた。壯士も眞面目な男であつたと見ゑ、遂に降參して潔く酒を止めて了つた。而して其行く先より丁寧なる感謝狀を送つたと云ふ。斯の如き熱誠の所在は何處に存するのであらうか。果して利己主義から出るであらうか。自分の利益ばかり思つて居る者に出來やうか。斷じて出る筈はない。日本の爲に、孤兒の爲に、老人の爲に盡さうとする博愛の赤心が熱する時、天下は眞に敵なしである至大至剛天地に塞がる浩然の氣は斷じて利己より出る者ではない、全く博愛の精心に宿るのである。博愛は煩悶を免るゝの道、善い友を作るは心氣を快活ならしむる良藥である人の爲に盡すものは孤獨ではな

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

い、その誠を盡す範圍が廣くなるだけ、元氣が旺盛となつてくる。又神を天父と信ずるものは兄弟の爲に一善行をなすとき、直に宇宙の神を仰いで無限の悅樂に入る。故に神を父とし人々を兄弟とするものは片時も獨身たるときがない、何時も無數の友を有して居る。故に心廣く體豊なる想感を有するに至る。宮內老人が日々刻々死に瀕するも尙生氣の旺盛なるものありしは公く博愛慈善の精神に富んで居つたからである。此最小者を受くるは即ち我を受くるなりとの神の聲は常に根底より人意を强うし人心を快ならしめ、又人情を溫にするものである故に私はいふ、愛の心を以てすれば道傍に生ずる松を見ても野に咲く一莖の花を見ても愉快の種ならぬものはない。況して自分の使ふ小僧や女中の働くのを見て何で愉快でない事があらう。博愛の精神ほど悅樂の多きはないのである。

冬の日の影にかたまる小魚かな　（斗　外）

二つの會話

爽かな春の朝、私は村の十字路に立つてゐた。其處から右の方に小さな橋を渡ると直ぐに學校があり、左の方の大きな路を行くと野原に出る。其處で私は前を通る二人の小供が次の話をしてゐるのを聞いた。

「Kさん、今日は。　「今日は、Mさん。

「何處へ行くんだ。Kさん。　「學校へさ。

「何？、學校へ、學校は塵ぼくつて汚いし、それに面倒臭いぜ、それよか野原の方がどんなに奇麗だか知れやしない、Kさん行つて遊ばないか。

「晚方にしようや、Mさん、私は學校に出かけなけりやならないもの、左樣なら。

「そう、君は勉强か、僕は遊びに行つてくろ、左樣なら、

二十年後、私は同じ村の同じ路に立つた。非常に寒い日であつた、靑白な顏色でボロボロの衣服を着た男が學校の門を叩いてゐた、立派な容子をした敎師が戶を開けて出て來た、其處で私は次の樣な話を聞いた。

「御免下さい、先生樣。　「ハイ、おいでなさい。

「何卒お助けなすつて下い。　「如何云ふ御願ですナ。

「敎師室の掃除でも、ストーブの火燃でも、何でもよろしうございますから、一つ使つて頂きたいのですが。

「そんな事より外に何か出來ませんか。　「はい、一向に。

一何故。　「少しも勉强致しませんでしたから。

「お名前は。　「Mと申します。

「お入りなさい、Mさん、今日は外は塵ぼいが敎室は奇麗です、今日からでもよいから何かお習ひなさい。

二人は這入り込んだ、戶が再び閉ぢられた、職業を求めた男は親切な先生が誰であつたかに氣が附いたかどうか。

（ロバルト・ライニツク）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

雜録

聖誕祭と弱者

山室軍平

クリスマスも目捷の間に迫まつて來た。此際切に考ねばならぬ事は、自分自身の胸の裡にキリストガ生きておゐでになるか如何かと云ふ事である。昔ベツレヘムに生れた基督が今人間の胸に生れるといふ、即ちインマヌエルといふ經驗は基督者の悉皆有せなければならぬ實驗である。信仰の形式や理論に流れず、此場合更に今一度其眞理を想ひ起して確めるのが、蓋しクリスマスに於て取る可き第一の心懸である。

而して又聖誕祭に於ては子供の問題を考ふ可きである。何故となれば基督自身が此際小兒として此世に現はれ給ひ、特に其基督が幼兒を重じて、之を大切に取扱ふ可き事を身を以て示し給へる事なれば、吾等は今更に子供の上に厚き注意を拂はなければならぬ。

西洋では幼き貧兒に靴をはかす運動かあつて、特に英國に於て盛に行はれておる、實に面白い事だと思ふ。斯くして世の中の貧兒を覺ね、此等に何等かの同情や救濟を施して、基督の御心を傳ふるは降誕祭を祝する意義に最も適合つた仕方である。夫れ故日本の如く學校教育に於て宗教の分子を欠いておる處では、猶更子供に基督を教ね知らせる事に就て注意を惹起すべき好時機であろうと思ふ。

更に此際注意を拂ふ可き事は婦人問題と貧民問題であると思ふ。私の立場から見て少しく此二問題に就いて話して見たいと思ふ。

慘ましい日本の婦人

英國の婦人が撰擧權獲得運動に奔走しておる事は、果して奬勵す可き事か如何かは私にはよく分らないが、日本に於ては婦人の地位が余りに低いように思はれる。世に時めく人々までも婦人を一種の玩具として恬として耻ない許か、却つて之を誇としてゐる位である。一方からは可憐なる婦人が內地に於て公然醜業に身を委ね、而も海外迄も世界に名物と云はれる程、多數の婦人が出かけて耻づ可き事を營んでおる。其源因を尋ぬれば、婦人は男子の爲に存在する玩弄物と見做す舊思想が未だに廣く世に行はれておるからである。

此間英國のある人が外國の婦人問題を論じた說を讀んだが、其中に日本の醜業婦の論があつた。之は全く日本人が婦人を尊重するの精神を欠いておるからだと說いておつた。殘念ながら其中に多大の事實が含まれておる事を認めなければならぬ。

ある時福岡生れの者で十九歳になる一婦人は、よい奉公口があると人にすゝめられて、大連の料理屋に雇はれた。處が意外にも料理屋の主人は暴力を以て婦人

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

に醜業を強ゐた。世なれぬ娘は恐ろしさに吾身の不運を歎いたが、此の場合どうする事も出來ず、心ならずも主人の意に從つて恥しい仕事を續けてゐた。處がある日國許に殘せる母が大病であるといふ報知を得たので、歸省を求めたが勿論鬼の樣な主人の許さう筈がない。で娘は余りに心配した結果ヒステリーになつて店に出かねる樣になつた。無情な主人は、虛病として之を責め浦鹽へ賣り飛すと威嚇した。若き娘の小さき胸は之が爲に破れて遂に發狂した、果は追出されて路頭に迷ふといふ可憐な樣になつた。之を救世軍の婦人救濟處で助けたが、遂に寢た切り起き上る事も出來ぬ病態であつた、終夜大聲で何か歌らしいものを怒鳴つておるので、傍から之を書きとつて見ると

窓を引き開け眺むればもうし〳〵お月樣、
内地に御座るかゝさんは、無事か知らせて下さんせ。
情ないほんに此身は籠の鳥、せめて空飛ぶ鳥なれば
近い博多に巢をかけて、こがれて泣く聲母さんに聞かせたい。

誰に覺れたかと問ふと蟲が知らせたと答ひつゝ、其儘病床で死んだ。

嗚呼何たるいたましき婦人の運命であらふ、明治の照代に於て斯る慘事が尠からず吾等の目前に現はれて來るのを見ては、吾等は更に吾等の力を盡くして此等無告の可憐なる婦人救濟の爲に努力する念を強めさるを得ないのである。吾が國民は同胞のかゝる慘劇を見て果して如何なる考を持つであらうか、誰一人として悲痛な思に胸を打たれないものはあらうと思ふ。然るに吾國の有識者と呼ばるゝ者の中には、醜業婦が海外に出稼するを國民發展の先驅と見做して、之を奬勵する語氣を出す人がある。國家は猶ほ家庭の如し、若しも自己の娘を道ならぬ仕事に賣つて、其送金によりて世を送る者ありとすれば、其人が如何に富豪であつても、高位の人であつても、吾人は人非人として之を排斥せざるを得ない。國家も亦同じ事である。若し日本帝國が海外に發展す可きものとしても、醜業婦によりてなさるゝ發展は最も大なる恥辱である。斯る發展は必ず不健實な結果を來すに止まつておる。

不幸にして吾人は一國の選良たる代議士の中に、人の娘を賣買して之に醜業を強ゐて衣食の料としつゝある人種を有しておる。恐れ多くも開院の度毎に　天皇陛下の御臨場を忝なうする議員の中に斯る人間を交へて國家の大事を依頼するが如きは之れより大した不都合はないと思ふ。之は米國か英國に於ては斷じて見られない事柄である、モルソン宗から撰出された代議士を其地位に安せしめなかつたのは實に米國である。それに就ても婦人の地位を高め、婦人を蔑視する舊思想を打破して、其使命の尊重すべき事を教ゆるが現今の急務である、而してクリスマスは此等の思想を鼓吹するに最も適當なる時機である。

可憐なる貧民

基督は弱者の爲に生れ、生き、且つ死に給ふた事を今更に想起させるクリスマスに於て吾等は世の不幸な人々に對し多大の同情を拂ふ可きである。

時は年末に際して貧民の最も凌ぎ難い時期であるのに、特に年末から年始にかけて、他人が取引勘定を濟せて樂々と新

年を迎へ祝する時に、其日暮しの悲しさには、平生の仕事さへ閑になり、時とすると三度の食事にも差支へる、他人が春衣を着て正月を樂しむ時に、一方に於ては塵程の食物をも得る事が出來ずにおると云ふ事は、決して打ち捨てゝ置く可き事ではないと思ふ。

救世軍では毎年慰問籠を作り、せめて極貧の人が年越の雜煮を食られる爲に、之を施すと云つては其獨立心を傷ける恐があるから、御祝儀として熨斗をつけて、紅白のもち、新しき手拭、菓子果物、小冊子などを入れて贈つておる。昨年は約千五百軒に之を配つた。中には見るに忍びない生活をしておる者があつた。本所のある處では三疊の一室に二家族十一人が同居しておつた。其光景を詳しく話しても所詮新女界讀者諸君には想像もつかれぬ事である。彼等の中には食物かない爲に二食をしておるものも、或は絶食しておる者もあつた。又ある者は夜具を持たぬ爲に米袋の中に這入て寢ておつた。

深川に行つた時の事である。ある長屋の三疊敷位の家の前の汚溝の傍に十二三歳にならふと思はれる男の子が泣いておつた、如何したと尋ねると、父は仕事に行き母は其處に死んでおると云ふので、驚いて這入つて見ると、成る程、たつた一枚きりないぼろ蒲團を柏に著て、醤油で煮〆たやうな汚い古手拭に顔を隱して横はつてゐる、手拭を除つて見ると三十四五歳と見える窶れた女が死んでおる。近處の人の話に據れば女は前夜の十二時に死んだのだが、亭主は葬式が出せない許か、其日の食物がない爲に、死んだ妻を其儘に置いて、餓に泣く子のパンを求むる爲に朝から外出して未だに歸らぬといふ事であつた。それで兎に角葬式が出せるだけの手傳はして歸つたが、之等の事から見ても生存競爭が日々に烈しくなつて來る今日、如何なる可憐なる貧民が吾人の周圍に居るかゞ解るであらう。

然るに玆に貧民の爲に氣を吐いてくれた痛快な一人の婦人がある。此人は東京のある貧民窟に住してゐる、年は三十を餘りに越してはゐない。二人の子を擁ひて且つ六十歳を越した盲目の夫にかしづいてゐる。夫は無藝で按摩も出來ず、年中三疊の室に坐つた儘である。斯る貧人の社會には有勝の、側から、顔も美しい し年齢も若いのにこんな處にくすぶつてゐずに、他の方法を求めたらと道ならぬ事をすゝめられたが、然し彼は嘗つて救世軍に來て基督を信ずる者となつたので假にも縁があつて夫とした人は其最後迄も世話しなければならぬと、此白髪盲目の夫と二人の子供を、女の細い腕一つで養つておる。現に私が訪ねて行つた時は、包紙を木版で摺る仕事をなし、漸次馴れて今は毎日三十五六錢の仕事が出來る樣になつたと云つておつた。私を見てうれし涙にくれ、共に祈つて別を告げた時、婦人の顔は信仰の力に輝き渡つてゐたのを見た事である。

要するに吾等の知る可き事は、斯る貧民弱者には一方物質的補助を與へると同時に、他方に於て精神的慰安を與へなければならぬ。貧民に一層の同情を與へ、一歩一歩基督の恩惠に入らしめたいと思ふ。私は愉快にクリスマスを祝すると同時に、世の中には實に斯くの如き慘めなる同胞が存する事を想うて、相應の盡力を效さる事を望むものである、かくするのが實に又基督者の正に爲さゞる可らざる當然の責任だと思ふのである。

（文責記者）

編輯だより

◎秋も何時しか末となり目白高臺の紅葉、常盤木のみどりを縫ひて火の如く、我朝夕の眺めに入るうれしさ、秋は空の心の何處迄も澄みたるを喜び申候、近く久世山といへる廣原に夕映の富士を仰げば其黑き姿は、まのあたり歩みよるかとさへ思はるゝ程に候、夏の初め此處へは移り住み候ひしが臺の端、崖の上にのせられし家居の、とり繕はん余地もあらで、ただ眺め廣きをのみほこりと致し候、斯ゝる處にありて、靜に書にも筆にも親しむを得ばと、多少は思ひまうけのふしも、ありしにて候らへ、なか〳〵まゝには成り難き世のつきまとひて今日に至り候。

◎先以て愛讀者皆様の御健在を祝し併せて本誌に對する厚き御同情を感謝いたし候、生後僅かに九ケ月の本誌も限りなき恩寵の手にはぐゝまれ、誠に健かに生立ち候仕合、もとより未だ一人前の婦人として世にも人にも捧げ得べき何物をも有し不申候らへども、主幹主筆は申に及ばず、筆取ると取らざると思ひは一つ、本誌をして見識あり、信仰ある姉妹等の堅實なる御伴侶として成長せしめん事げに日頃切なる祈りの一つに候、果して如何、只讀者皆様の眞實なる御指導に待つ處多きを知るのみに候。

◎本號はクリスマス號として内容外觀共多少の心盡しをなし、かねて讀者諸君の好意に報ひまひらせ度編輯主任の骨折も尠なからざりしもたゞ二三篇それに因める記事を得たる外、其運びにも至らせ得ざりし事呉々の遺憾に存じ候、十月の多忙なりしに續ぎ先月のあやめ會發起の演藝會の如き、少なからず記者編輯者の手足をからみて、本誌の爲め力を專注し得ざりし罪重大なるを今更謝し奉り候。

◎今年のあやめ會は一昨年、昨年の夫と異なり、大阪呂昇一座の義太夫を中心として、貞水の講談、野間連中の狂言を附し候、運動の時日少なかりしと、他に差支多き時節柄にも拘はらず、成功いたし候は流石に古く養はれたる、日本趣味の容易に衰へざるを思ひ、聊か心強く覺ね候、かつは藝術の神に我知らず涙を落し候程に、天才とは申ながら呂昇の技倆には一同感服の外無之候かゝる催しあるにつけても會員の活動は並大抵の事にあらず、察するに余りあり候。

◎本誌誕生、日あさく、よろづに不滿足の點多きに拘はらず、今日なほ、二千の着實なる讀者を與へられ、臺灣、北海道、朝鮮、支那、アメリカ、布哇等、あらゆる方面に熱心なる讀者の數、まさり行き候がうれしく、中にも地方の教會及師範學校、高等女學校に割合つよき根ざしを有し候事、偏に主幹主筆の御力とたのもしく覺ね候、安井主筆、海老名夫人、元良夫人、かならず編輯の時日に間に合ふ樣熱心に執筆したまひ、それ〴〵隨分事しげくおはす中にも、本誌の爲めには貴重なる時を惜しみ給はざること喜び申候、新人の編輯に見し如き電報さわぎ等は、ゆめにもあり得ぬ程、夫丈け婦人は物事に忠實なるにはあらずか、我田に水引く類のほこりを描き居候、松井夫人が夫より夫へ心ひかれ給ふ事多く、讀者と記者の望むが如くやさしき思ひをにほひある筆にのせ給ふの暇おはさぬを只管恨みに存じ候、始め事務所の女中を以て名のり候私、實は事務所の外には日も暮れず、夜もあけぬ、生活の筆取らば又しても あられもなき事云ひ出でゝは、甲斐なき

御うらみを受んが恐ろしさに、おとなしう、差控ゆるつもりに候らひしが、今號を以て今年のお名殘りとなれば編輯だよりの片隅を借りてきれ〴〵の思を述べ候。

◎序に申上度は新年號よりは内容に一しほの注意あるべきは申迄もなく、表紙畫も口繪もすでに考案なり居、さし繪もいろ〳〵取揃へ出來得る限り皆様の御滿足を得たく心盡し可申候有田氏は早くも新年號の此等を御仕舞なされ、十一月七日横濱を出でゝ小笠原島へ旅立せられ候、たゞ椰子の樹蔭に南洋の風をなづかしむ心、抑へ難くしとのみ一月一度の便船、ゆめの如く遠く、亞米利加よりも歐羅巴よりも心細き感いたし候御本職の書は更、歌袋如何ばかり重うやおはすべき、田澤藤郎の名にかくれて、新人及本誌をにぎわし給ふの日を待望いたし候。

◎忙はしさも續けば續くものに候か、此事すまばと思ひつゞけて、あとよりあとに追はるゝ様此秋をすぎ候、先日のあやめ會にていよ〳〵忙はしさの打止めと存じ候らひし處、早速新人、新女界の事、折も折、かねて社用に賴みおける人、事務係も、廣告係も、一時に病みてあらず、明日よりは、發送の仕度に夢中にならねばならぬ仕儀に候、事によれば廣告取りにも使はるゝかと存じ居候、本誌出來上りて皆様の手に讀まるる頃は多分金切の催促でも郵送すべく、いやな思を致し居候時けかと存じ其狀御受取の上は何卒早速御送金被下度乍序くれ〴〵も願ひ上げ置き候。

◎こゝ迄記し來て通讀致し候處、如何にも婦人の手一つに本誌の面目を保ち居候ようの書きぶり、我ながら行き屆かぬ筆に驚き申候、實は決してさる生意氣申にては無之、飽迄熱心有力なる諸先生の御助けを離れては立行き不申此處に改めて御詫び申上置候、內ケ崎先生は遠くより「ゆきあたりばつたり集」を續々寄せられ栗原先生の史傳の如き金子醫學士の衞生談の如き、大塚楠男氏は特に近頃本誌の編輯を一切擔當せられ、容易ならぬ骨折をせられ居候、小山、吉野、兩學士の如き暫く誌上よりかくれ居られ候得共、何時にても本誌の爲めに力を惜しみ給はざるを皆様御記臆被下度候、相原文學士は此頃專ら新人のみの編輯に苦心せられ居候。（野口せい子）

本誌定價　一部金拾錢（郵稅ナシ）◎六部半年分前金六十錢（郵稅ナシ）◎壹ケ年分十二部前金壹圓拾錢（郵稅ナシ）

外國行定價　壹部金拾四錢（郵稅ナシ）◎半年分前金八拾錢（郵稅ナシ）一ケ年分前金壹圓六拾錢（郵稅ナシ）

廣告料

行廿七字詰	四分ノ一頁	半頁	一頁	內表紙十二圓
金廿五錢	金三圓	金五圓	金十圓	外表紙拾八圓

●數回引續き御揭載の向へは大割引可致候

◎本誌代金は總て前金に御拂込み被下度候

●郵券代用は一割增の計算にて御送附被下度候

通信、爲換、寄贈雜誌等は必ず左の宛名に願上候

東京市小石川區小日向臺町三丁目九十三番地
新人社事務所
振替貯金口座一四〇〇五

明治四十二年十一月二十八日印刷
明治四十二年十二月一日發行

發行兼編輯人　東京市小石川區林町四十三番地　海老名彈正
印刷人　東京市小石川區小日向臺町三ノ九三　野口末彥
發行所　東京府下豊島郡巣鴨村大字巣鴨六百六十一番地　新人社
印刷所　東京市赤坂區田町五丁目十一番地　齋藤活版所

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

院長診察月、水、木、金午前、松田醫學士診察火、土、
午前、窮者施診、火、木、午前、入院診斷後隨時應需、
松田、林、兩副長は目下當院に在勤、

電話本局（八八八病院用 八九八私宅用）

東洋内科醫院

東京市神田區駿河臺鈴木町二番地（御茶水橋畔）

院長 醫學士 高田畊安

神奈川縣相州高座郡茅ケ崎村濱（停車場所在）

電話茅ケ崎（二番）

南湖院

河野副長は目下當院に在勤、
院長診察土曜日午後〇同時窮者施診、
副長診察月、火、水、木、金、土、午前
入院診斷後隨時應需、

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

毎月一日一回發行

ライオン煉歯磨

朝の寝覺の心地悪しきも一度ライオン煉歯磨を用ゆれば心身忽ち快活なること恰も大旱の苗に沛然の雨を得たるが如し尚且つ歯牙をして健全雪白ならしむ特效に至りては既に愛用諸彦の實驗に徵して明なり

新製(十二)號は乳白色の瓶入にてニッケル蓋を有し體裁美なる楕圓形にして日常の御使用に便なり

◉定價　壹個僅に　十二錢

試用見本

として御入用の方は郵券十二錢御送付あれ一個郵送す

發賣元

東京神田柳原川岸

小林富次郎

明治四十二年三月廿九日第三種郵便物認可